National Institute of Technology, Okinawa College

学校要覧 2021

沖縄で学ぶ　沖縄から世界へ　咲かせよう未来　最南の地から最先端へ

独立行政法人 国立高等専門学校機構

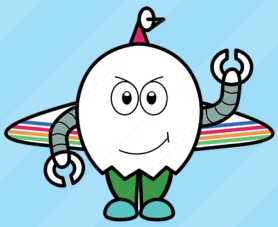
沖縄工業高等専門学校

本　科

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科

専攻科

- 創造システム工学専攻



沖縄工業高等専門学校公式キャラクター「エン玉くん」

National Institute of Technology, Okinawa College

ご　挨　拶

独立行政法人　国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
校長　伊原博隆

沖縄高専は、全国 51 校の国立高等専門学校の中でもっとも新しい高専として沖縄県名護市に誕生し、本年４月には、新入生第 18 期生を迎えることができました。校章の由来は、「青き豊かな海」と「やんばるの深き緑」を表現しており、周囲を取り囲む円は「沖縄の青い空」を表しています。名護の豊かな自然は、素晴らしい教育環境を育み、高等教育機関に相応しい、未来志向型の教育プログラムが整えられています。本校には、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の本科４学科と１専攻科（４コース）があり、地域が求める実践的技術者の養成から我が国の未来を支える高度技術・研究者を育成しており、経済産業界からも高い評価を得ています。

高専教育の魅力の一つは、普通科高校１年生に相当する本科１年次から大学と同質の教育を受けることができる点にあります。一般教養から専門科目まで、そして実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育から先端研究までをバランス良く学習する機会に恵まれます。また本校には学科横断型の多彩な教育プログラムを整備しています。「航空技術者プログラム」では航空関連産業で活躍するエンジニアとしての必要な基礎知識・技能を習得し、「バイオ・インフォマテックス人材育成プログラム」では健康医療産業における情報技術を学びます。また、ＩｏＴ教育プログラムやサイバーセキュリティ人材育成事業では、進化する情報社会に対応するための基礎知識や技術を学ぶことができます。

高専のもう一つの魅力は、多彩なキャリアパスを提供できる点にあります。本科卒業時には準学士（工学）の称号が付与され、さらに専攻科に進学することによって、より高度な専門技術教育を受けることができ、修了後は大学と同等の学士（工学）の学位を取得することができます。また本科卒業と同時に、国立大学３年次への編入学への道も大きく開かれています。編入学は、自身の可能性をさらに拡げる機会となり、多くの学生が大学院に進学しています。そして今、高専は「ＫＯＳＥＮ」ブランドとして世界に進出しています。本校は、ＫＯＳＥＮのグローバルネットワークを活用して皆さんの国際力強化を応援します。

皆さん、沖縄の地で最先端の科学技術を基礎から学び、地域や日本の将来、さらには国際的に活躍できるプロフェッショナルを目指しませんか。本校は皆さんの夢を叶えるお手伝いをします。

令和３年６月

目　次

ご挨拶　　沖縄工業高等専門学校　校長　伊　原　博　隆

沿　革 — 3
高等専門学校の概要 — 4
組　織 — 5
◆会議・委員会 — 5
◆事務部連絡先 — 5
◆組織図 — 6
役職員一覧 — 7
◆事務職 — 7
◆技術職 — 7
◆教職員数 — 7
◆歴代校長 — 8
◆名誉教授 — 8
教育理念・目的・教育目標 — 9
三つの方針 — 11

本　科 — 17
機械システム工学科 — 17
情報通信システム工学科 — 19
メディア情報工学科 — 21
生物資源工学科 — 23
総合科学科 — 25
専攻科 — 27
創造システム工学専攻 — 27
特色のある教育 — 29
航空技術者プログラム — 29
IoT 教育事業 — 29
未来技術の社会実装教育 — 30
学　生 — 31
◆学生定員・現員 — 31
◆入学志願者及び入学者数 — 31
◆地域別入学者数 — 32
◆高等学校等就学支援金制度 — 33
◆奨学生 — 33
◆主な学費 — 33
◆高等教育の修学支援新制度 — 33
◆進路状況（本科） — 34
◆進路状況（専攻科） — 35
卒業生のコメント — 35
学生寮 — 36
図書館 — 37
技術支援室 — 38
夢工場 — 39
広報センター — 40
グローバル交流推進センター — 41
キャリア教育センター — 42
地域連携研究推進センター — 43
産業界との連携 — 43
産業連携協力会との活動実績 — 44
学生相談・支援室 — 45
情報処理センター — 45
学生会 — 46
九州沖縄地区高専体育大会主要実績 — 46
コンテスト関係主要実績 — 47
女性教員の活躍 — 48

収支報告・外部資金 — 49
◆収入・支出決算額（令和元年度） — 49
◆外部資金 — 49
建物配置図・土地・建物 — 50

校章の由来

沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。

沿革

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日の1期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。

沿革の年譜

平成9年（1997）

■1月22日
沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

平成11年（1999）

■8月11日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出

■9月27日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請

■12月28日
「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

平成12年（2000）

■3月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置

■3月17日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置

■4月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置

■8月10日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

平成13年（2001）

■4月20日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置

■7月27日
国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

平成14年（2002）

■1月24日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置

■4月10日
国立学校設置法改正

■6月5日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表

■10月1日
沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）初代校長に琉球大学教 授工学博士糸村昌祐が就任

■10月24日
沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

平成15年（2003）

■2月27日
沖縄工業高等専門学校起工式の挙行

■3月31日
事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

平成16年（2004）

■1月10日
推薦による選抜試験の実施

■1月28日
第Ⅰ期工事竣工

■2月22日
学力検査による選抜試験の実施

■3月10日
名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催

■3月22日
事務室を新校舎（辺野古）に移転

■4月10日
第1回入学式を挙行、175名が入学

■4月21日
沖縄工業高等専門学校産学連携協力会を発足

■8月2日
学生会発足

■9月30日
第Ⅱ期工事竣工

■10月31日
沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催

■11月5日
沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

平成17年（2005）

■2月2日
レリーフ除幕式を挙行

平成21年（2009）

■3月21日
第1回卒業式を挙行、147名が卒業

■4月1日
専攻科（創造システム工学専攻）を設置

■4月4日
第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

平成22年（2010）

■4月1日
第2代校長に熊本大学教授工学博士伊東繁が就任

平成23年（2011）

■3月19日
第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了

■3月25日
専攻科棟竣工

平成24年（2012）

■4月27日
日本技術者教育認定機構（JABEE）認定

平成25年（2013）

■4月3日
第10回入学式を挙行、166名が入学

■9月21日
創立10周年記念式典を挙行

平成27年（2015）

■4月1日
第3代校長に島根大学教授工学博士安藤安則が就任

■4月1日
航空技術者プログラム設置

令和2年（2020）

■4月1日
第4代校長に工学博士伊原博隆が就任

高等専門学校の概要

高等専門学校は、昭和30年代の経済成長期に、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者が必要とされたことを背景として、経済産業界からの強い要請により、昭和37年度に創設されました。

現在では、全国に国立51校、公立３校、私立３校の合計57校の高等専門学校があります。

なお、平成16年４月１日より、当時の国立55校は、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立の高等専門学校となっています。

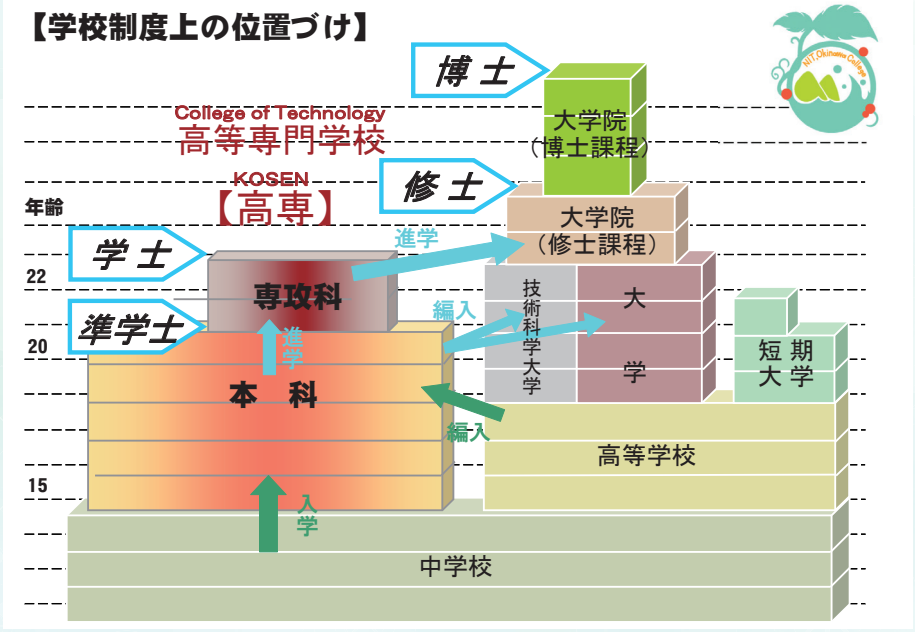
高等専門学校は、中学校卒業生を受け入れ、高等学校３年間と大学の２年間に相当する５年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

理論的な基礎とその上に立った実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育や少人数クラス編制でのきめ細かな教育による創造性あふれる実践的技術者の養成には、経済産業界から高い評価を得ています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。

また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職（就職率は例年ほぼ100%）、大学３年次への編入学、専攻科への進学（大学評価・学位授与機構の審査に合格すると「学士」の学位が与えられます。）と多岐にわたっています。

高等専門学校制度の概要



・高校卒業生は、高専４年次への編入資格があります。
・高専卒業生は、大学３年次への編入資格があります。
・高専卒業生は高専の専攻科に進学する資格があります。
・専攻科では最新の科学知識と技術を更に深めたい学生のため、２年間のより高度な技術者教育を行います。修了して「学士」を得た者は大学院への入学資格があります。

組織

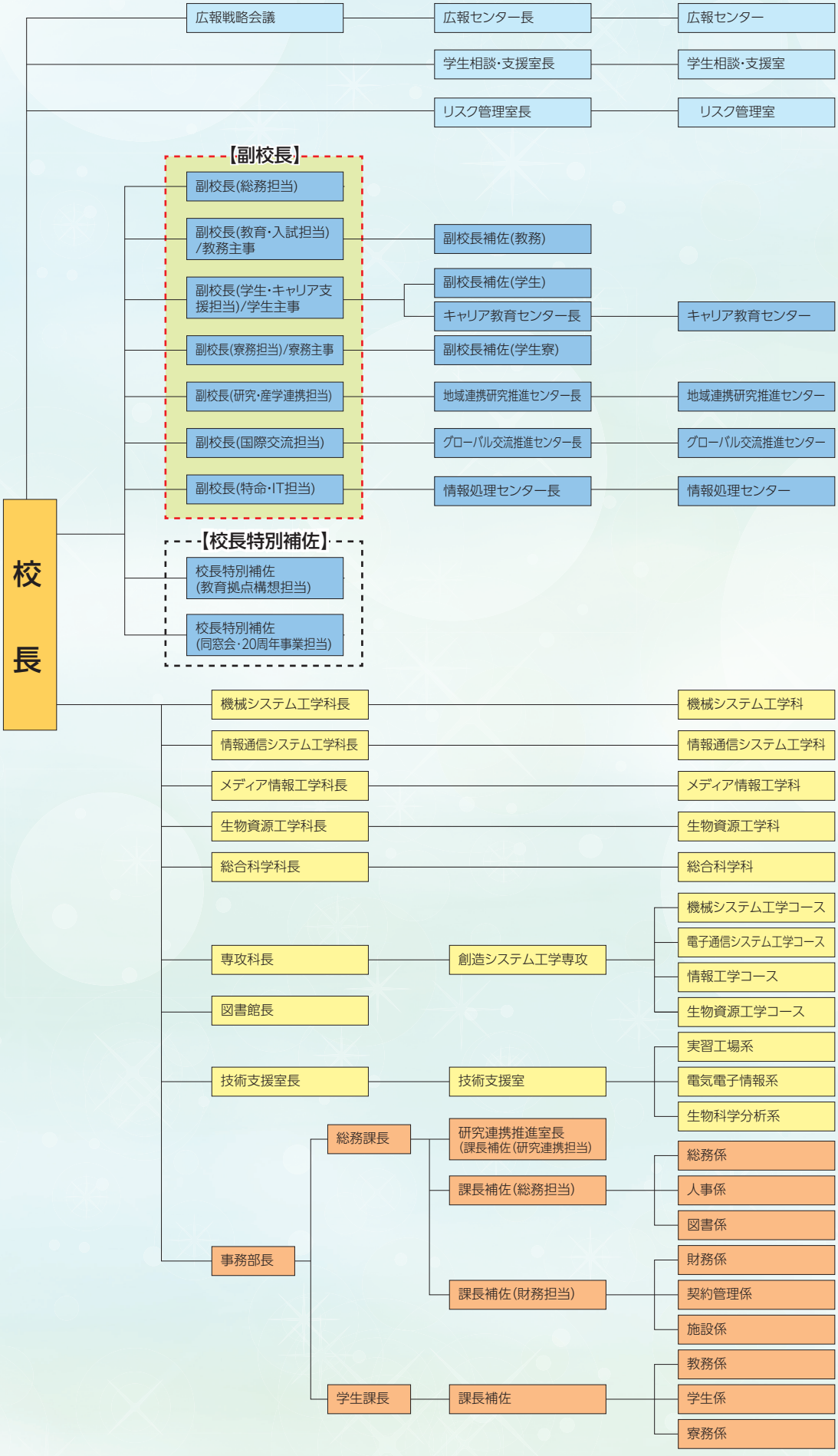
会議・委員会

- ◆ 運営会議
- ◆ 広報戦略会議
- ◆ いじめ対策委員会
- ◆ 総務委員会
- ◆ 図書館運営委員会
- ◆ 教務委員会
- ◆ 入学者選抜実施委員会
- ◆ FD・SD 実施委員会
- ◆ 学生委員会
- ◆ 学生寮委員会
- ◆ 安全衛生委員会
- ◆ 専攻科運営委員会
- ◆ 航空人材育成委員会
- ◆ 評価対応委員会
- ◆ 技術支援室運営委員会
- ◆ 知的財産委員会
- ◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会
- ◆ 動物実験委員会
- ◆ ヒト研究倫理審査委員会
- ◆ 男女共同参画推進委員会
- ◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会
- ◆ 職員レクリエーション委員会

事務部連絡先

係		電話番号	メールアドレス
総務課	研究連携推進室	0980-55-4070	skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
	総務係	0980-55-4003	ssoumu@okinawa-ct.ac.jp
	人事係	0980-55-4006	sjinji@okinawa-ct.ac.jp
	図書係	0980-55-4037	stosyojoho@okinawa-ct.ac.jp
	財務係	0980-55-4014	szaimu@okinawa-ct.ac.jp
	契約管理係	0980-55-4020	skkanri@okinawa-ct.ac.jp
	施設係	0980-55-4023	ssisetu@okinawa-ct.ac.jp
学生課	教務係	0980-55-4028	gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
	学生係	0980-55-4032	ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
	寮務係	0980-55-4039	gryoumu@okinawa-ct.ac.jp

組織図


広報戦略会議
広報センター長
広報センター
学生相談・支援室長
学生相談・支援室
リスク管理室長
リスク管理室
【副校長】
副校長(総務担当)
副校長(教育・入試担当)/教務主事
副校長補佐(教務)
副校長(学生・キャリア支援担当)/学生主事
副校長補佐(学生)
キャリア教育センター長
キャリア教育センター
副校長(寮務担当)/寮務主事
副校長補佐(学生寮)
副校長(研究・産学連携担当)
地域連携研究推進センター長
地域連携研究推進センター
副校長(国際交流担当)
グローバル交流推進センター長
グローバル交流推進センター
副校長(特命・IT担当)
情報処理センター長
情報処理センター
【校長特別補佐】
校長特別補佐(教育拠点構想担当)
校長特別補佐(同窓会・20周年事業担当)
校長
機械システム工学科長
機械システム工学科
情報通信システム工学科長
情報通信システム工学科
メディア情報工学科長
メディア情報工学科
生物資源工学科長
生物資源工学科
総合科学科長
総合科学科
専攻科長
創造システム工学専攻
機械システム工学コース
電子通信システム工学コース
情報工学コース
生物資源工学コース
図書館長
技術支援室長
技術支援室
実習工場系
電気電子情報系
生物科学分析系
総務課長
研究連携推進室長(課長補佐(研究連携担当)
課長補佐(総務担当)
総務係
人事係
図書係
事務部長
課長補佐(財務担当)
財務係
契約管理係
施設係
学生課長
課長補佐
教務係
学生係
寮務係

役職員一覧

校長	伊原　博隆

副校長（総務担当）	眞喜志　隆
副校長（教育・入試担当） 教務主事	眞喜志　治
副校長（学生・キャリア支援担当） 学生主事	比嘉　吉一
副校長（寮務担当） 寮務主事	濱田　泰輔
副校長（研究・産学連携担当）	伊東　昌章
副校長（特命・IT担当）	與那嶺　尚弘

校長特別補佐 （教育拠点構想担当）	金城　伊智子
校長特別補佐 （同窓会・20周年事業担当）	神里　志穂子

機械システム工学科長	武村　史朗
情報通信システム工学科長	谷藤　正一
メディア情報工学科長	伊波　靖
生物資源工学科長	玉城　康智
総合科学科長	成田　誠
専攻科長	高良　秀彦
図書館長	小池 寿俊
技術支援室長	武村　史朗

広報センター長	神里 志穂子
リスク管理室長	玉城　龍洋
学生相談・支援室長	兼城　千波

キャリア教育センター長	津村　卓也
地域連携研究推進センター長	鈴木　大作
グローバル交流推進センター長	星野　恵理子
情報処理センター長	與那嶺　尚弘

事務職

事務部長	藤元　高徳
総務課長	金城　邦光
学生課長	大城　光雄

技術職

副技術長・技術専門員	藏屋　英介
技術主査（実習工場系） 技術専門職員	具志　孝
技術主査（電気電子情報系） 技術専門職員	比嘉　修

教職員数

令和３年５月１日現在

	校長	教授	准教授	講師	助教	教員計	事務系職員	技術職員	看護師	合計
現員	1	24	22	11	4	62	31	9	1	103

歴代校長

顔写真			
校　長	初　代	2　代	3　代
氏　名	糸村　昌祐 （いとむら　しょうすけ）	伊東　繁 （いとう　しげる）	安藤　安則 （あんどう　やすのり）
在任期間	平成14年10月1日 ～ 平成22年3月31日	平成22年4月1日 ～ 平成27年3月31日	平成27年4月1日 ～ 令和2年3月31日

名誉教授

元職	氏名	授与年月日	元職	氏名	授与年月日
校長	糸村　昌祐	平成26年9月	教授	知念　幸勇	平成29年5月
教授	松栄　準治	平成26年9月	教授	宮田　恵守	令和元年5月
教授	真鍋　幸男	平成26年9月	教授	網谷　厚子	令和元年5月
教授	高木　茂	平成26年9月	校長	安藤　安則	令和2年4月
校長	伊東　繁	平成27年5月	教授	姉崎　隆	令和2年4月
教授	角田　正豊	平成29年5月	教授	三枝　隆裕	令和2年4月
教授	鈴木　龍司	平成29年5月	教授	正木　忠勝	令和2年4月
教授	新川　智清	平成29年5月			

教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目　　的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

教育目標

本　科

本科教育目標

1．技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2．創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3．専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4．広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

＜各学科の人材育成上の目的及び教育目標＞

【機械システム工学科】

人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

教　育　目　標

1．自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2．材料・加工学等の要素技術やＣＡＤ・ＣＡＭ・ＣＡＥ等のコンピュータを使用した生産技術力
3．各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4．電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

教　育　目　標

1．総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2．コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3．通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4．情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【 メディア情報工学科 】

人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

教　育　目　標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【 生物資源工学科 】

人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

教　育　目　標

1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

専　攻　科

専攻科教育目標

1. 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2. 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3. 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4. 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

三つの方針

本　科

＜アドミッションポリシー＞

本科のディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

（1）理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
（2）責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
（3）規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の３つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜
　本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜
　本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

・帰国子女特別選抜
　本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

＜カリキュラムポリシー＞

本科では以下の科目を配置し、専門的基礎力、コミュニケーション力、倫理観、自己研鑽力を育成する

（1）各専門分野の基礎的な知識を学び、かつそれらを応用する科目：各学科専門科目、総合科学科科目
（2）各専門科目の技術を修得する科目：専門学科実験実習科目：卒業研究
（3）共同で問題解決にあたりコミュニケーション力を修得する科目：専門学科実験実習科目
（4）継続的に学習していく能力を養う科目：卒業研究

＜ディプロマポリシー＞

本科では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

（1）理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する実践力を身につけている
（2）コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる能力を身につけている
（3）技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる能力を身につけている
（4）継続的に自己研鑽できる能力を身につけている

機械システム工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、３年次編入学の場合にも以下に準じる

（１）機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
（２）機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人
（３）機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

（１）自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など
［本科教育目標：1］［学科教育目標：1］
（２）機械システムの知識を習得する科目：物理と数学を基礎とするいわゆる四大力学（材料力学、流体力学、機械力学、熱力学）と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目（電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など）
［本科教育目標：1、3］［学科教育目標：1、3、4］
（３）機械システムの技術を修得する科目：実践的な機械システム工学実験、材料加工システム（工作実習）、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目
［本科教育目標：1、3］［学科教育目標：2、3、4］
（４）課題解決能力を育成する科目：課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、正しい倫理観を養う技術者倫理など
［本科教育目標：2、4］［学科教育目標：1～4］

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60 点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

（１）機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる能力
［本科教育目標：1、2、3］［学科教育目標：1～4］
（２）課題の本質を理解し、論理的に思考しようとする能力［本科教育目標：1、3］［学科教育目標：1、3］
（３）他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる能力［本科教育目標：1、3］［学科教育目標：1～4］
（４）倫理観・責任感を持って課題に取り組むことのできる能力［本科教育目標：1、4］［学科教育目標：1］
（５）自身の成長のため、自己研鑽できる能力［本科教育目標：3、4］［学科教育目標：1～4］

情報通信システム工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、３年次編入学の場合にも以下に準じる

（１）コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
（２）携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人
（３）情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

（１）自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
［本科教育目標：１］［学科教育目標：１］
（２）工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：１～４］
（３）問題や課題に対して、個人またはグループで自主的、計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１］
（４）論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１］
（５）技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。［本科教育目標：４］［学科教育目標：１］
（６）実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。
［本科教育目標：１～４］［学科教育目標：１～４］

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60 点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

（１）工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を身につけている。
［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：１～４］
（２）課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的、計画的に物事を進めて解決を導く能力を身につけている。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１］
（３）論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力、コミュニケーション基礎能力を身につけている。
［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１］
（４）技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身につけている。［本科教育目標：４］［学科教育目標：１］
（５）実践的・創造的技術者として自立する意識、職業選択を自主的に行える能力、及び社会と産業の発展に果敢に取り組む挑戦的な態度を身につけている。［本科教育目標：１～４］［学科教育目標：１～４］

メディア情報工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、３年次編入学の場合にも以下に準じる

（１）コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
（２）コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
（３）コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している

（１）自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
［本科教育目標：１］［学科教育目標：１］
（２）コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群：プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、OS とコンパイラ、ディジタル回路、ディジタルシステム設計など。
［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２、３］
（３）ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群：通信工学、情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２、３］
（４）データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群：メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２、３、４］
（５）課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的能力を育成するための科目群：各種実験、卒業研究など。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１～４］

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60 点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

（１）自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力。
［本科教育目標：１］［学科教育目標：１、４］
（２）コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２、３］
（３）モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力。
［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２、３］
（４）種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力。
［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：１、４］
（５）課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的能力。［本科教育目標：１、２、３］［学科教育目標：１～４］

生物資源工学科 の三つの方針

<アドミッションポリシー>

生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、３年次編入学の場合にも以下に準じる

（１）生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
（２）自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
（３）バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

<カリキュラムポリシー>

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している

（１）自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
［本科教育目標：１］［学科教育目標：１］
（２）生物工学の基礎科目：情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学Ⅰ、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学Ⅱ、タンパク質工学、産業化学など。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２～４］
（３）技術習得に関する科目：実践的な生化学実験、遺伝子工学実験、生物工学実験、微生物学実験、環境学実験、生理学実験、化学および化学実験法など。［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：２～４］
（４）課題解決能力・コミュニケーション力育成科目：沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など。
［本科教育目標：１～４］［学科教育目標：１～４］

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60 点以上で単位を認定する

<ディプロマポリシー>

生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身に付けた者に卒業を認定する

（１）亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学・微生物学に関する基礎知識および専門知識を持ち、生物資源の効用や利用方法を探索できる創造的・実践的な研究・開発の技術力を有する。
［本科教育目標：１、３］［学科教育目標：１～４］
（２）アジア圏と接近している地理的条件を活かして国際交流をはかり、相手の考えを受け入れると共に自分の考えも主張し、到達点を決め、それに向かって協力していけるチームワーク力やコミュニケーション力を有する。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：１］
（３）習得した専門知識を基礎として、仕事をするために必要な情報は何であるか、それらをどのように組み合わせれば効率的に仕事が行えるかの思考力を有する。［本科教育目標：２、４］［学科教育目標：３、４］
（４）困難に遭遇した際に、自分の現状を把握し、どこが問題で、どうしたら解決できるのか、どのような助力を求めればよいのかを明確にする論理的思考とそれらを他者へ説明するコミュニケーション力を有する。
［本科教育目標：２、３、４］［学科教育目標：１］
（５）バイオ、化学、環境、医薬・食品系産業などで活躍できる人材であり、社会ニーズに応えることができ、国際性を備えた技術者としての能力を有する。［本科教育目標：２、３、４］［学科教育目標：３、４］

専　攻　科

＜アドミッションポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

（1）技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
（2）専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
（3）基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
（4）新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
（5）複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の３つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、小論文と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を実施する。

・社会人特別選抜

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

＜カリキュラムポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、基本科目として以下に対応した科目を設ける

（1）専門科目の応用力を身につける
（2）知識を融合・複合する力を身につける
（3）他者と協働できるコミュニケーション力を身につける
（4）グローバルな視点で物事を見る力を身につける

＜ディプロマポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

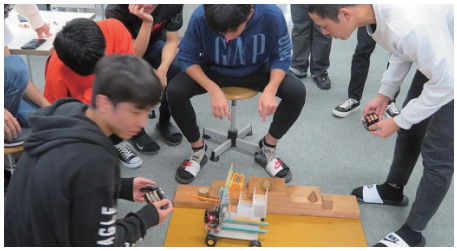
（1）深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用する能力を有する
（2）論理的に物事を考え、表現できる能力を有する
（3）倫理観を持ち、他者と協働できる能力を有する
（4）グローバルな視点で、多面的に物事を捉える能力を有する

本科

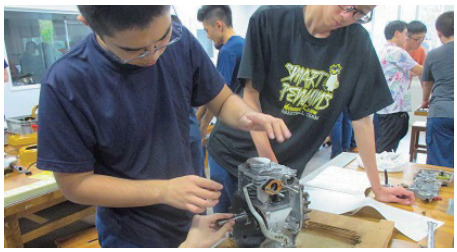
機械システム工学科

機械工学は、コンピュータ部品のようなミクロな世界からロボット・自動車・航空宇宙まであらゆる産業のものづくりの中心となる重要な学問分野です。これら先端技術の各分野で多くの機械工学技術者が、設計・開発・研究・製造の分野で活躍しています。

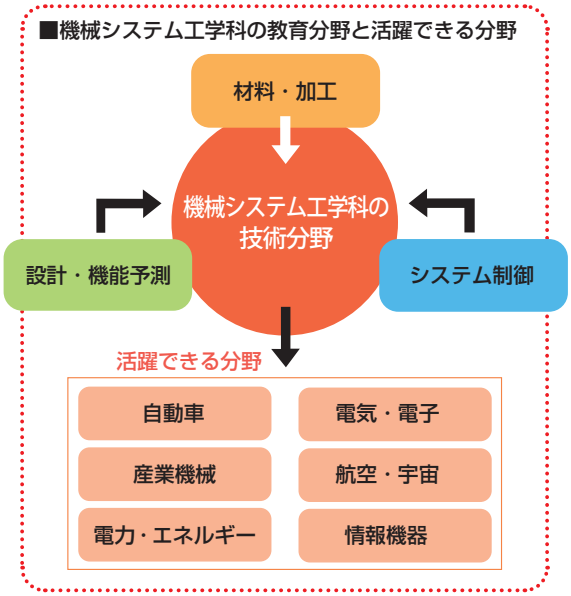
本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指しています。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、材料と加工を中心とした材料システム群、設計と力学を中心とした設計システム群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・工作実習・工学実験などの自己学習を重視した教育を行います。



学科内ロボコン（2年）



エンジンの分解・組立（3年）



■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教　授	博士（工学）	武村　史朗	専門分野：ロボティクス、制御工学 1. 海中ロボットの操作に関する研究　2.ロボット技術を利用した地域課題への応用
教　授	博士（工学）	比嘉　吉一	専門分野：材料力学、計算固体力学、マルチフィジックス 1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究 2. マルチフィジックス現象に関連した数値シミュレーションに関する研究 3. 金属結晶欠陥場の3次元可視化に関する研究
教　授	博士（工学）	眞喜志　治	専門分野：熱工学 1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究　2.マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究
教　授	博士（工学）	眞喜志　隆	専門分野：表面改質、機械材料 1. 金属材料の表面改質に関する研究　2.表面改質と疲労強度に関する研究
教　授	博士（工学）	山城　光	専門分野：熱工学、熱流体計測工学 1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究 2. 炭素繊維触媒界面における有機液滴の熱化学的相互作用に関する研究 3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構
准教授	博士（工学）	安里　健太郎	専門分野：制御工学、ロバスト制御、ソフトコンピューティング 1. 介護・看護に関するサポート機器の研究開発 2. 論理的思考力育成を目指した科学技術教材の研究開発　3.システムの低次元化に関する研究
准教授	博士（工学）	下嶋　賢	専門分野：加工学、計測工学 1. 機械システムの高精度化　2.機械加工現象の解析
准教授	博士（工学）	津村　卓也	専門分野：溶接・接合，プラズマ処理・レーザ加工・表面処理 1. 摩擦発熱を利用した金属材料の各種固相接合法に関する研究 2. 新素材・異種材料の溶接・接合に関する研究 3. 各種熱源による金属材料の表面処理および切断に関する研究
准教授	博士（工学）	鳥羽　弘康	専門分野：生産管理、生産制御、生産計画 1. 生産計画立案支援シミュレーション・生産工程スケジューリングの研究 2. システムシミュレーションによる大規模システムの挙動予測、性能予測の研究
准教授	博士（工学）	政木　清孝	専門分野：材料強度、疲労、フラクトグラフィ、CT 1. 機械構造部材の疲労信頼性評価に関する研究 2. 表面処理による疲労特性向上に関する研究
講　師	博士（工学）	森澤　征一郎	専門分野：数値流体力学、航空力学、データマイニング、多目的最適化 1. 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究 2. Roadble Aircraftの概念設計とその実現可能性の検討 3. データ探査や最適化の技術開発とその応用に関する研究

■ 機械システム工学科　教育課程

	授業科目		単位数	区分	学年別配当										備考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習							3	通			
	基礎科目群	専門基礎工学	2	講義	2	半									
		プログラミングⅠ	2	講義・演習			2	通							
		応用数学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		応用数学Ⅱ	2	講義									2	半	学修単位
		応用物理	2	講義					2	通					
		機械力学	3	講義							3	通			学修単位
	材料システム群	材料加工システムⅠ	3	実習	3	通									
		材料加工システムⅡ	3	実習			3	通							
		材料加工システムⅢ	2	実習					2	半					
		機械工作法	2	講義					2	通					
		機械材料	2	講義					2	通					
		CAD・CAMⅠ	2	演習					2	通					
		CAD・CAMⅡ	2	演習							2	半			学修単位
		材料科学	2	講義							2	半			学修単位
	設計システム群	機械製図基礎学	2	講義・実習	2	通									
		機械製図学	2	講義・実習			2	通							
		機械設計学	1	講義・実習			1	半							
		材料力学設計Ⅰ	2	講義・実習			2	通							
		材料力学設計Ⅱ	2	講義・演習					2	通					
		総合構造設計	2	講義・演習							2	通			
		熱工学	3	講義							3	通			学修単位
		流体工学	2	講義							2	通			
		熱流体機器	2	講義									2	半	学修単位
	システム制御群	電気・電子工学	2	講義					2	通					
		制御工学	2	講義							2	半			学修単位
		メカトロニクス工学	3	講義・演習									3	通	学修単位
		計測工学	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	産業創造セミナー	1	講義・演習					1	半					
		機械システム工学実験Ⅰ	3	実験							3	通			
		機械システム工学実験Ⅱ	3	実験									3	通	
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修得単位計		83		12		12		15		24		20		
選択	基礎科目群	プログラミングⅡ	2	講義・演習					2	通					
		化学Ⅱ	2	講義					2	通					
	材料システム群	CAE	2	講義									2	半	学修単位
	設計システム群	エネルギー変換工学	2	講義									2	半	学修単位
	システム制御群	生産工学	2	講義									2	半	学修単位
		システム制御論	2	講義									2	半	学修単位
		知能制御論	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	整備基礎Ⅰ	2	講義・演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習									2	通	航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習									3	通	航空技術者プログラム履修者に限る
	開設単位計		26		1		1		5		3		16		
	修得単位計		6		0		0		2		0		4		
開設単位合計			109		13		13		20		27		36		
修得単位合計			89		12		12		17		24		24		

◎　特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし，卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）

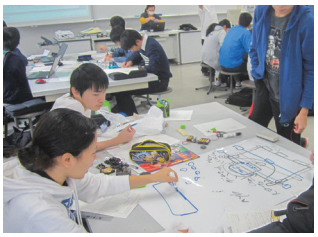
本科

情報通信システム工学科

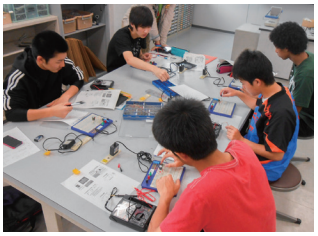
タブレット PC、インターネット、スマートフォンや携帯端末などの情報通信技術の急速な進歩、普及は社会に大きな影響を与えています。この情報通信技術を支えているのが、コンピュータ、ネットワーク、通信、制御、半導体集積回路などの技術を修得したハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的創造的技術者です。

本学科では、情報通信分野で活躍できる実践的創造的技術者の育成を目指し、次の技術分野の基礎を学びます。
（1）コンピュータアーキテクチャ（2）プログラミング（3）集積回路（4）信号処理（5）光・無線通信技術
（6）ネットワーク（7）オペレーティングシステム（8）アルゴリズムとデータ構造（9）組込みシステム

情報通信分野における実践的創造的技術者の育成
（ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者を目指す）


情報通信工学実験の授業

計算機工学の授業


創造演習の授業

電波暗室での通信実験（専攻科）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教　授	博士（工学）	兼城　千波	専門分野：半導体工学、電子工学、弾性波工学 1. 弾性波－半導体結合素子・複合機能素子に関する研究 2. 半導体・圧電センサに関する研究 3. マイクロスプリングプローブの開発研究（ＭＥＭＳ技術）
教　授	博士（工学）	金城　伊智子	専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報 1. 意思決定支援システムの構築 2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究
教　授	博士（工学）	高良　秀彦	専門分野：光通信、光計測 1. 光通信システムに関する研究 2. 光通信品質測定技術、レーザー光安全に関する研究
教　授	博士（工学）	谷藤　正一	専門分野：マイクロ波・ミリ波工学、無線通信工学 1. 高周波 Si-CMOS RF デバイスの研究 2. 3D-SiP 技術を用いた小形・高密度RFモジュールの研究
教　授	博士（工学）	山田　親稔	専門分野：計算機工学、論理設計、形式的設計検証 1. システムLSI 設計・機能検証に関する研究 2. LSI 設計教育に関する研究
准教授	博士（工学）	神里　志穂子	専門分野：感性工学、運動計測、データ解析 1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築 2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究
准教授	博士（情報科学）	中平　勝也	専門分野：無線通信工学、情報工学 1. 衛星やドローンなどを用いた各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究 2. ヘテロジニアス無線ネットワーク環境下における干渉低減方式に関する研究 3. 電波環境やトラフィックの変動に応じた無線リソースの適応制御に関する研究
講　師	博士（工学）	宮城　桂	専門分野：計算機工学、VLSI 設計 1. 省電力 VLSI の実現法に関する研究 2. ディペンダブルVLSIの実現法に関する研究
助　教	博士（工学）	相川　洋平	専門分野：光通信工学、符号理論 1. 光信号処理を用いた符号化技術に関する研究 2. 光信号処理を用いた符号推定に関する研究 3. 光集積回路設計に関する研究
助　教	博士（工学）	亀濱　博紀	専門分野：半導体工学、電子集積回路 1. SOI 技術を用いたX線検出器の開発　　2.IoT を活用した高生産性 3. IoT を活用したセンシングシステムの開発

■ 情報通信システム工学科　教育課程

	授業科目		単位数	区　分	学年別配当										備　　考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習							3	通			
	基礎科目群	離散数学	2	講義									2	半	学修単位
		応用数学	2	講義							2	半			学修単位
		応用物理	2	講義							2	半			学修単位
		情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半									
		情報通信工学実験Ⅰ	2	実験			2	通							
		情報通信工学実験Ⅱ	2	実験					2	通					
		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験							2	通			
		計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通									
		計算機工学Ⅱ	2	講義			2	通							
		ソフトウェア演習	1	演習	1	半									
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通					
		プログラミング基礎Ⅰ	2	講義	2	通									
		プログラミング基礎Ⅱ	2	講義			2	通							
		応用プログラミングⅠ	4	演習							4	通			学修単位
		応用プログラミングⅡ	4	演習									4	通	学修単位
		データベース	2	講義									2	半	学修単位
		電気回路Ⅰ	2	講義			2	通							
		電気回路Ⅱ	2	講義					2	通					
		電磁気学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
	情報通信工学群	ネットワーク概論	2	講義			2	通							
		信号処理	2	講義							2	半			学修単位
		情報理論	2	講義									2	半	学修単位
		通信工学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		通信工学Ⅱ	2	講義									2	半	学修単位
	電子・集積回路工学群	半導体工学	1	講義					1	半					
		電子回路Ⅰ	2	講義					2	通					
		電子回路Ⅱ	2	講義					2	通					
		電子回路演習	2	演習							2	通			学修単位
		集積回路工学	4	講義									4	通	学修単位
	計算機ソフトウェア群	計測工学	2	講義					2	通					
		制御工学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		オペレーティングシステム	2	講義					2	通					
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通					
	共通群	卒業研究	8	実験									8	通	
	修　得　単　位　計		88		12		12		17		23		24		
選択	基礎科目群	化学Ⅱ	2	講義							2	半			学修単位
		電磁気学Ⅱ	2	講義									2	半	学修単位
	情報通信工学群	情報通信総合演習	2	演習							2	通			学修単位
		電波電送学	2	講義									2	半	学修単位
		通信法規	1	講義									1	半	学修単位
	計算機ソフトウェア群	ＩＴ応用	2	講義					2	通					
		人工知能	2	講義							2	半			学修単位
		制御工学Ⅱ	2	講義							2	半			学修単位
		組込システムⅠ	2	講義							2	半			学修単位
		組込システムⅡ	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通					
		創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	整備基礎Ⅰ	2	講義・演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習									2	通	航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習									3	通	航空技術者プログラム履修者に限る
	開　設　単　位　計		33		1		1		5		13		13		
	修　得　単　位　計		1		0		0		0		1		0		
開　設　単　位　合　計			121		13		13		22		36		37		
修　得　単　位　合　計			89		12		12		17		24		24		

◎　特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）
●　修得単位に関して、学修単位数が60単位を超える場合には担任へ相談すること。

本科

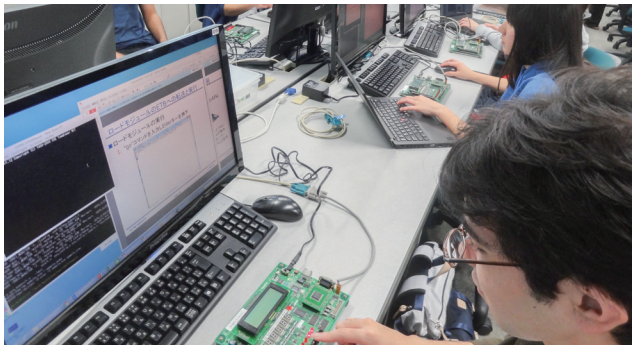
メディア情報工学科

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって大切な要素です。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術と通信技術の発展と融合のおかげで、情報のディジタル化を通して異なるメディアを統合的に扱うこと、そして、膨大な情報を世界規模で伝達共有することが可能になりました。本学科では、マルチメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行います。

（1）情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてディジタル加工するコンテンツ制作教育

（2）アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育

（3）世界規模で動作するインターネットの仕組みやセキュリティ及びブロードバンドでユビキタスな通信技術に関する教育



専門科目の授業風景

専門科目の授業風景

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教　授	修士（工学）	伊波　靖	専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理 1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定 2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス 3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス
教　授	博士（学術）	玉城　龍洋	専門分野：交通工学、社会科学、進化的計算、プログラミング教育 1. 交通流および交通ネットワークの解析　2. 歩行者行動モデルの開発 3. プログラミン教育手法の開発
教　授	博士（工学）	タンスリヤボンスリヨン	専門分野：画像処理・認識・圧縮、ディジタル信号処理 1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発 2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究 3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究
教　授	修士（工学）	與那嶺　尚弘	専門分野：計算機工学、工学教育、福祉工学 1. 失語症患者および発達障碍児向け言語機能訓練支援システムの構築 2. リハビリテーションおよび学習時における集中度の測定に関する研究 3. ネットワークを用いた学習支援システムの開発
准教授	博士（知識科学）	佐藤　尚	専門分野：複雑系、人工生命、人工知能、進化言語学、進化論的計算 1. 生命・認知・言語・社会・経済などの自律的に発展/進化する「複雑系」に関する構成論的研究 2.「複雑系」における創発現象の解析
准教授	博士（工学）	鈴木　大作	専門分野：情報工学、ソフトウェア工学 1. 組込みソフトウェア技術、開発手法、開発管理 2. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントに関する研究 3. モバイルインターネットアクセス技術に関する研究・開発
准教授	博士（家政学）	西村　篤	専門分野：サウンドスケープデザイン、メディアコンテンツ、教育福祉 1.サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性に関する理論構築 2.メディアコンテンツ制作とその社会的応用における対話的手法の開発 3.スクールソーシャルワークにおけるセルフアドボカシーの支援
准教授	博士（工学）	バイティガ　ザカリ	専門分野：ロボット工学・画像処理・ゼータ関数 1. 複数のセンサーに基づくロボットの開発　2. GPSを用いた移動ロボットに関する研究 3. ロボットビジョンに関する研究　4. 解析関数の複数積分の適用
講　師	博士（工学）	金城　篤史	専門分野：情報工学、情報システム、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、海洋音響学 1. 情報システムの構築・管理・運用に関する研究　2. 情報工学の農業や水産への応用 3. 複数センサーによるセンシング技術の開発に関する研究
助　教	修士（理学）	當間　栄作	専門分野：画像処理、画像解析、ソフトコンピューティング 1. 眼底画像解析システムの開発に関する研究 2. 眼底動画像からの動脈硬化診断に関する研究

メディア情報工学科　教育課程

		授業科目	単位数	区分	学年別配当 1年 単位	1年 期間	2年 単位	2年 期間	3年 単位	3年 期間	4年 単位	4年 期間	5年 単位	5年 期間	備考
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習							3	通			
	基礎科目群	離散数学	2	講義					2	通					
		応用数学	2	講義							2	半			学修単位
		応用物理	2	講義					2	通					
		情報理論	2	講義							2	半			学修単位
		プログラミングⅠ	3	講義	3	通									
		メディア情報工学セミナー	1	講義	1	半									
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通					
	Ⅰ群	メディアコンテンツ基礎	3	講義・演習	3	通									
		メディア情報工学実験Ⅰ	4	実験			4	通							
		コンピュータグラフィックスⅠ	2	講義							2	半			学修単位
		コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義									2	半	学修単位
		コンピュータグラフィックスⅢ	2	講義									2	半	学修単位
		メディア情報工学実験Ⅱ	2	実験					2	通					
	Ⅱ群	プログラミングⅡ	4	講義			4	通							
		プログラミングⅢ	2	実験					2	通					
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通					
		メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験							2	通			
		オブジェクト指向言語	2	講義							2	半			学修単位
		ＯＳとコンパイラⅠ	2	講義							2	半			学修単位
		ＯＳとコンパイラⅡ	2	講義									2	半	学修単位
		データベース	2	講義									2	半	学修単位
	Ⅲ群	ディジタル回路	2	講義			2	通							
		メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通					
		ディジタルシステム設計	2	講義							2	半			学修単位
	Ⅳ群	通信工学	2	講義					2	通					
		情報セキュリティⅠ	2	講義									2	半	学修単位
		情報セキュリティⅡ	4	講義									4	半	学修単位
		コンピュータネットワークⅠ	2	講義					2	通					
		コンピュータネットワークⅡ	2	講義							2	半			学修単位
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修得単位計		85		12		12		18		21		22		
選択	Ⅰ～Ⅳ群	メディアコンテンツ応用	2	講義									2	半	学修単位
		組み込みソフトウェア	2	講義									2	半	学修単位
		信号処理とメディア通信	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	整備基礎Ⅰ	2	講義・演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習									2	通	航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習									3	通	航空技術者プログラム履修者に限る
	開設単位計		18		1		1		1		3		12		
	修得単位計		4		0		0		0		0		4		
開設単位合計			103		13		13		19		24		34		
修得単位合計			89		12		12		18		21		26		

◎　特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）
●　Ⅰ群：メディア・コンテンツ群、Ⅱ群：ソフトウェア群、Ⅲ群：ハードウェア群、Ⅳ群：ネットワーク群

本 科

生物資源工学科

沖縄工業高等専門学校の立地条件の特長の一つは、海洋性に恵まれた亜熱帯性気候です。本学科では、これら亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用ができ、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指します。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行ないます。

専門分野の授業科目は（1）生物化学工学群、（2）環境・微生物学群、（3）食品化学工学群の 3 群を軸に編成されています。

（1）生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実します。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養います。

（2）環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学びます。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得します。

（3）食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学びます。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模の食品製造の実践的能力を養います。

オープンキャンパス（名護：沖縄高専）

留学生との交流（タイ：シーナカリンウイロート大学）

学会発表（新潟：長岡技科大）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教　授	博士（医学）	池松　真也	専門分野：生化学、がんの生物学、診断薬開発 1. 乳酸菌を応用・利用した商品の開発 2. 新規な成長因子“ミッドカイン”の医薬分野への応用 3. iPS 細胞を利用した医療スクリーニング系の開発
教　授	博士（学術）	伊東　昌章	専門分野：タンパク質工学、酵素化学 1. 有用酵素の探索、機能解析、および応用に関する研究 2. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究
教　授	博士（学術）	平良　淳誠	専門分野：生物有機化学、生物資源化学、酸化ストレスの生命科学 1. 生物資源の探索と機能性機構解明に関する研究 2. 生物資源の薬用食品、薬用化粧品の利用に関する研究
教　授	博士（農学）	玉城　康智	専門分野：発酵学、微生物学 1. 泡盛に関する研究全般への対応と研究成果の商品化 2. 微生物を利用した有用成分の生産とその利用に関する研究
教　授	博士（工学）	濱田　泰輔	専門分野：物理化学、光化学、有機化学 1. 色素増感型太陽電池の研究 2. 超臨界流体抽出に関する研究
准教授	博士（理学）	磯村　尚子	専門分野：分子生態学、繁殖生態学 1. 海洋生物における繁殖様式と集団維持・進化の関係性の解明 2. 海洋生物における遺伝的集団構造の解明
准教授	博士（農学）	三宮　一宰	専門分野：植物分子生物学 1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発 2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発
准教授	博士（理学）	嶽本　あゆみ	専門分野：食品加工学 1. 衝撃波を利用した食品加工技術の開発 2. 衝撃波処理による非加熱殺菌技術の開発
准教授	博士（農学）	田邊　俊朗	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索 2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発
准教授	博士（工学）	沖田　紀子	専門分野：微生物学、分子生物学 1. 微生物群集解析によるメタン漏洩の検知に関する研究 2. PCB分解菌の育種
助　教	博士（理学）	萩野　航	専門分野：系統分類学、生態学、環境学 1. 東南アジア地域における土壌動物相の多様性解明および環境指標生物の探索 2. ササラダニ類の記載分類学およびDNAバーコーディング

生物資源工学科　教育課程

	授業科目		単位数	区分	学年別配当										備考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習							3	通			
	基礎科目群	基礎科学	2	講義	2	半									
		応用物理	2	講義					2	通					
		応用数学	2	講義							2	半			学修単位
		基礎プログラミング	2	講義	2	通									
		情報技術の応用	2	講義					2	通					
	生物化学工学群	有機化学・物理化学	4	講義・実習演習			4	通							
		生物分析化学	2	講義・実習			2	通							
		生物有機化学	2	講義					2	通					
		生化学	3	講義					3	通					
		生化学実験	1	実験					1	通					
		遺伝子工学	2	講義							2	半			学修単位
		遺伝子工学実験	2	実験							2	半			学修単位
		生物工学	2	講義							2	半			学修単位
		生物工学実験	2	実験							2	半			学修単位
	環境・微生物学群	微生物学	3	講義			3	通							
		微生物学実験	1	実験			1	通							
		発酵学	2	講義・実習					2	通					
		環境学	1	演習					1	半					
		環境学実験	2	実験					2	半					
		環境分析学	2	講義・演習							2	半			学修単位
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		生理学	2	講義							2	半			学修単位
		生理学実験	2	実験							2	半			学修単位
		食品プロセス工学	4	講義									4	通	学修単位
		食品製造学	2	講義・実験									2	通	
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通									
		化学および化学実験法	2	実験					2	通					
		化学資格基礎	2	講義					2	通					
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修得単位計		81		13		12		19		23		14		
選択	生物化学工学群	分子生物学	2	講義									2	半	学修単位
		細胞工学	2	講義									2	通	
	環境・微生物学群	環境保全学	2	講義							2	半			学修単位
		植物生理学	2	講義							2	半			学修単位
		資源リサイクル学	2	講義									2	半	学修単位
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験									2	半	学修単位
		タンパク質工学	2	講義									2	通	
	共通群	産業化学	2	講義									2	通	
		創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	開設単位計		21		1		1		1		5		13		
	修得単位計		8		0		0		0		2		6		
開設単位合計			102		14		13		20		28		27		
修得単位合計			89		13		12		19		25		20		

◎　特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）

本科

総合科学科

総合科学科では、５年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や教養を身につけます。
また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。
そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、５年間を通しての効果的なカリキュラムを編成します。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では高度な英語力を養うために、「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎技能の鍛錬から始まり、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力の伸長を図ります。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論のみを追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。

国語Ⅰの授業風景

英語の授業風景１

英語の授業風景２

数学の授業風景

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教　授	博士（理学）	小池　寿俊	環論
教　授	博士（理学）	成田　誠	一般相対論、非線型偏微分方程式
教　授	修士（文学）	星野　恵里子	イギリス・アイルランド文学
教　授	博士（理学）	山本　寛	複素解析学
准教授	博士（学術）	青木　久美	哲学、心理学
准教授	博士（理学）	木村　和雄	地理学、地形学
准教授	博士（文学）	澤井　万七美	芸能史、演劇学
准教授	博士（文学）	下郡　剛	日本中世史、近世琉球史、古文書学
准教授	博士（理学）	森田　正亮	理論物理学
准教授	博士（理学）	吉居　啓輔	数学基礎論
准教授	修士（体育学）	和多野　大	スポーツ心理学、スポーツ科学
講　師	博士（理学）	緒方　勇太	微分幾何学
講　師	修士（文学）	片山　鮎子	日本語学（中世）
講　師	修士（社会学）	ｶｰﾏﾝ　ﾏｺｱ　ｸｲｵｶﾗﾆ	家族学
講　師	博士（言語学）	崎原　正志	言語学、琉球語学、日本語学
講　師	修士（スポーツ学）	島尻　真理子	スポーツ科学、コーチング、ハンドボール
講　師	修士（理学）	松露　真	数学基礎論
講　師	修士（人類学）	山内　祥之	文化人類学
講　師	修士（カウンセリング学）	吉井　りさ	日英スピーチ・プレゼンテーション教授法

総合科学科　教育課程

		授業科目	単位数	区分	学年別配当										備考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	国語	国語Ⅰ	2	講義	2	通									
		国語Ⅱ	2	講義			2	通							
		国語Ⅲ	2	講義					2	通					
		文学概論	2	講義							2	半			学修単位
		科学技術文章	2	講義							2	半			学修単位
	英語	English Comprehension Ⅰ	2	演習	2	通									
		English Comprehension Ⅱ	2	演習			2	通							
		English Comprehension Ⅲ	2	演習					2	通					
		English Comprehension Ⅳ	2	演習							2	半			学修単位
		English Communication Ⅰ	1	演習	1	半									
		English Communication Ⅱ	1	演習			1	半							
		English Skills Ⅰ	2	演習	2	通									
		English Skills Ⅱ	2	演習			2	通							
		English Skills Ⅲ	2	演習					2	通					
		English Skills Ⅳ	2	演習							2	半			学修単位
		English Skills Ⅴ	2	演習									2	半	学修単位
		科学技術英語	2	演習									2	半	学修単位
	社会科学	歴史学概論	2	講義			2	通							
		地理学概論	2	講義					2	通					
		地域文化論	2	講義							2	半			学修単位
		技術者倫理	2	講義									2	半	学修単位
		現代社会	1	講義			1	半							
	数学	基礎数学Ⅰ	4	講義	4	通									
		基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通									
		微積分Ⅰ	4	講義			4	通							
		微積分Ⅱ	4	講義					4	通					
		線形代数	2	講義			2	通							
		確率・統計	2	講義							2	半			学修単位
	自然科学	物理Ⅰ	2	講義	2	通									
		物理Ⅱ	2	講義			2	通							
		化学	2	講義・演習	2	通									
		生物と環境	2	講義			2	通							生物・環境分野
		地球科学概論	2	講義							2	半			学修単位
	健康科学	スポーツ実技Ⅰ	2	実技	2	通									
		スポーツ実技Ⅱ	2	実技			2	通							
		スポーツ実技Ⅲ	1	実技					1	半					
		健康科学	1	演習・講義					1	半					
	修得単位計		77		21		22		14		14		6		
選択	英語演習		2	演習							2	半			学修単位
	生命科学		2	講義・実験							2	半			学修単位
	スポーツ実技Ⅳ		2	実技							2	通			
	特許法・法学		2	講義							2	半			学修単位
	日本語Ⅰ※1		2	講義・演習					2	通					※1 外国人留学生科目
	日本語Ⅱ※2		2	講義・演習							2	半			※2 外国人留学生科目、学修単位
	日本事情Ⅰ※1		2	講義・演習					2	通					※1 外国人留学生科目
	日本事情Ⅱ※2		2	講義・演習							2	半			※2 外国人留学生科目、学修単位
	開設単位計		8		0		0		0		8		0		本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない
	修得単位計		2		0		0		0		2		0		
開設単位合計			85		21		22		14		22		6		
修得単位合計			79		21		22		14		16		6		

◎　特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし，卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）

専攻科

創造システム工学専攻

沖縄高専の専攻科は、教育理念、教育目的、育成する技術者像にもとづき、それぞれの学位申請区分となる専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学）において、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。本科との科目関連と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースから構成されています。この４コースの専門性を融合・複合するための実験科目や国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムを策定しています。授業で扱う内容には大学院修士課程と同等レベルの高い専門技術教育も含まれており、選択科目として所属コース以外の科目を履修することも可能であり、学生の希望に応じた幅広い分野の学修機会が得られます。また、課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育（Engineering Design Education）を実施していて、実際のプロジェクト遂行（PBL 教育）を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

【専攻科の入学定員・収容定員】

専　攻　名	入　学　定　員	収　容　定　員
創造システム工学専攻	24	48

■ 創造システム工学専攻　教育課程

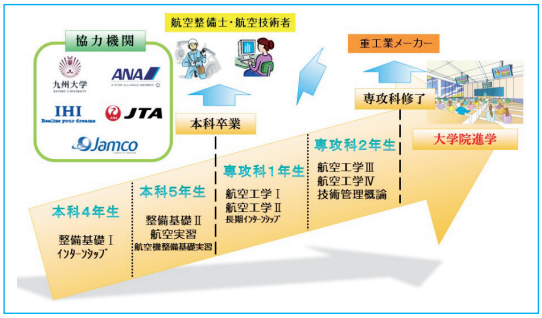
コース	種別	必修・選択の別	科　目　名	単位数	区分	学年別配当単位数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備　考
全コース	一般科目	必　修	実用英語Ⅰ	2	講義	2				
			実用英語Ⅱ	2	講義			2		
	専門共通科目		特別研究ⅠA	3	実験	3				
			特別研究Ⅱ	8	実験			8		
			専攻科実験	4	実験			4		
			創造システム工学実験	4	実験	4				
	修　得　単　位　計			23		9		14		
	一般科目	選　択	日本文化論	2	講義			2		
			哲学・倫理学	2	講義				2	
			日琉交流史	2	講義		2			
			地球科学特論	2	講義		2			
			琉球諸語入門	2	講義	2				
			英詩研究	2	講義		2			
			English Business Communication	2	講義			2		
			スポーツ科学特論	2	講義			2		
			創造システム工学セミナー一般	2	講義	2		2		※学内で開催する教育技術講演会 ※１年又は２年で修得可
	修　得　単　位　計			4		4				
	専門共通科目	選　択	特別研究ⅠB	3	実験		3			
			長期インターンシップ	4～12	実習	4 ～ 12				2年次選択可 1か月：4単位 2か月：8単位 3か月：12単位 3単位以上修得すること
			物理学特論	2	講義		2			
			数学通論	2	講義	2				
			応用解析学	2	講義			2		
			応用物理特論	2	講義	2				
			物理化学	2	講義			2		
			バイオテクノロジー	2	講義		2			
			バイオマス利用工学	2	講義		2			
			品質・安全マネジメント特論	2	講義				2	
			経営工学	2	講義			2		
			グローバルインターンシップ	2	実習			2		１年次選択可
			創造システム工学セミナー専門	2～8	講義	2 ～ 8				2単位：30時間　4単位：60時間 6単位：90.時間　8単位：120時間以上 ※連携企業・提携校で実施する講義
	修　得　単　位　計			15		15				
修　得　単　位　計				42		42				
開　設　単　位　計				84		84				

種別	コース	必修・選択の別	科　目　名	単位数	区分	学年別配当単位数				備　　考
						1年		2年		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	機械システム工学コース	選　択	材料学特論	2	講義	2				
			溶接・接合工学	2	講義			2		
			連続体力学	2	講義	2				
			材料強度学特論	2	講義			2		
			数値シミュレーション　Ⅰ	2	講義		2			
			数値シミュレーション　Ⅱ	2	講義			2		
			生産工学特論	2	講義		2			
			制御系構成論	2	講義		2			
			表面工学	2	講義				2	
			輸送現象論	2	講義	2				
			流体工学特論	2	講義	2				
			熱機関工学	2	講義	2				
			ロボット工学	2	講義				2	
			技術管理概論	2	講義				2	
	電子通信システム工学コース		シミュレーション工学	2	講義		2			
			数理計画法	2	講義		2			
			生体情報工学	2	講義			2		
			数値解析論	2	講義			2		
			信号処理特論	2	講義		2			
			アルゴリズム理論	2	講義				2	
			マイクロ波工学	2	講義	2				
			システムＬＳＩ設計工学	2	講義	2				
			光電子デバイス	2	講義	2				
			半導体物性工学	2	講義		2			
			弾性波工学	2	講義			2		
			電子機器工学	2	講義				2	
			知能システム特論	2	講義			2		
			ＬＳＩプロセス工学	2	講義	2				
	情報工学コース		情報数学	2	講義	2				
			メディアコンテンツ特論	2	講義		2			
			組込システム特論	2	講義	2				
			データ工学	2	講義		2			
			情報セキュリティ特論	2	講義			2		
			ソフトウェア開発特論	2	講義				2	
			計算機科学特論	2	講義	2				
			ロボティクス	2	講義			2		
			ヒューマンインタフェイス	2	講義			2		
			ネットワーク特論	2	講義		2			
			システム制御工学	2	講義	2				
			画像処理特論	2	講義		2			
			デジタルフォレンジック	2	講義				2	
			プログラミング特論	2	講義			2		
	生物資源工学コース		資源生物機能形態学	2	講義	2				
			分子生物学　Ⅱ	2	講義	2				
			植物工学	2	講義				2	
			無機化学	2	講義		2			
			代謝生化学	2	講義			2		
			応用微生物学	2	講義	2				
			酵素化学	2	講義	2				
			醸造学	2	講義		2			
			生物資源の機能性科学	2	講義			2		
			酸化ストレスの生命科学	2	講義		2			
			タンパク質資源利用学	2	講義			2		
			食品化学	2	講義		2			
			食品機能学	2	講義			2		
			他コースの選択科目							6単位まで認める
	プログラム指定科目	選　択	航空工学Ⅰ	2	講義	2				
			航空工学Ⅱ	2	講義	2				
			航空工学Ⅲ	2	講義			2		
			航空工学Ⅳ	2	講義				2	
			修　得　単　位　計	20		20				
			開　設　単　位　計	118		68		50		
			修　得　単　位　計	62		62				
			開　設　単　位　計	202		202				

※　本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある。

航空技術者プログラム

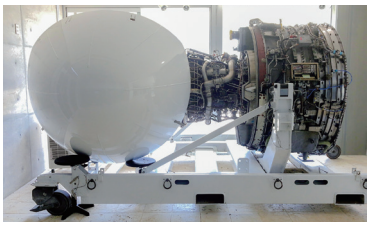
沖縄県は「沖縄２１世紀ビジョン」の中で、航空機整備事業（MRO事業）を中心とした『航空関連産業クラスターの形成』を重点戦略の一つとして掲げています。このMRO事業を支え、地域に根差す産業を構築するためには、エンジニアとしての素養を有する航空整備士の育成が必要となります。本校の「航空技術者プログラム」は、これに対応できる人材を輩出することを目的として、各専門分野の知識・技術をベースとした航空整備士並びに航空技術者を目指す人材を育成するために開設されました。この人材育成プログラムは、本科４年生から専攻科２年生までの４年間に渡る教育課程となっており、最初の２年間で航空整備に関する基礎知識を習得し、後半の２年間で航空技術者に必要な基礎知識を習得する教育内容となっています。これまでに協力機関より提供された教材も充実してきており、技術教育の面においても、その効果が期待されます。県内外の複数の協力機関と協働することにより、地域に貢献できる人材の輩出に務めています。



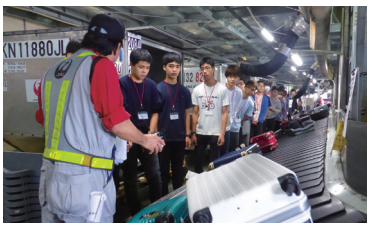
航空技術者プログラムの概略

■ 教員（現員）

職名	出向元	氏名	担当授業
特命教授	ANA	佐藤　進	整備基礎Ⅰ、整備基礎Ⅱ、航空実習、インターンシップ


校舎内に設置されたターボファンエンジンおよびレドームエンジン（JTA 様より寄贈）、レドーム（Peach Aviation 様より寄贈）

実習の様子


空港施設見学の様子

IoT教育事業

沖縄高専では、低学年で一般科目や専門科目はもちろんコンピュータの基礎技術・プログラミング・プレゼンテーションを全員が学びます。また、人材育成教育として、創造研究や高専セミナーなどの専門分野を横断した特色ある授業があります。本校の学生は、１人１台ノートパソコンを所有しており、変化する時代に活躍する技術者・研究者になるためにパソコンを活用したICT ／ IoT ／ AI教育が行われています。さらに、融合・複合を目指した分野横断型の技術者の育成を目的に、低学年から横串のIoT教育事業を進めています。昨年度からコンテストやフォーラムもオンラインで開催されており、学生達が積極的に参加しています。

社会実装フォーラムの発表の様子

実施目標

・１年生でのIoT学習：主に簡単なプログラミングやセンシング、などの基礎技術を学びそこから、アイディアを出していくことが出来るよう授業内容を組み込む。
・２年生でのIoT学習：学んだプログラミングやセンシングをもとに自分でアイディアした仕組みを構築する演習を取り入れる。
・３年生以上でのIoT学習：学習した内容を応用し、ユーザーのニーズ把握から機器のアイディア出し、プロトタイプ機器の開発などに発展するように創造研究などに取り入れる。

社会実装フォーラムの成果発表会実績

・優秀社会実装賞／社会実装賞
チーム：沖縄02チーム　　テーマ：豊かな老後ライフを実現する「なんくるないカー」
・社会実装構想賞／社会実装賞
チーム：沖縄04チーム　　テーマ：聴覚・言語障がい者向けコミュニケーションシステム
・構想賞
チーム：沖縄01チーム　　テーマ：COVID-19に挑む観光産業向け眼鏡型AIデバイスの研究開発
・社会実装賞
チーム：沖縄03チーム　　テーマ：サポート者のニーズを考慮した簡易型視野測定器の改良

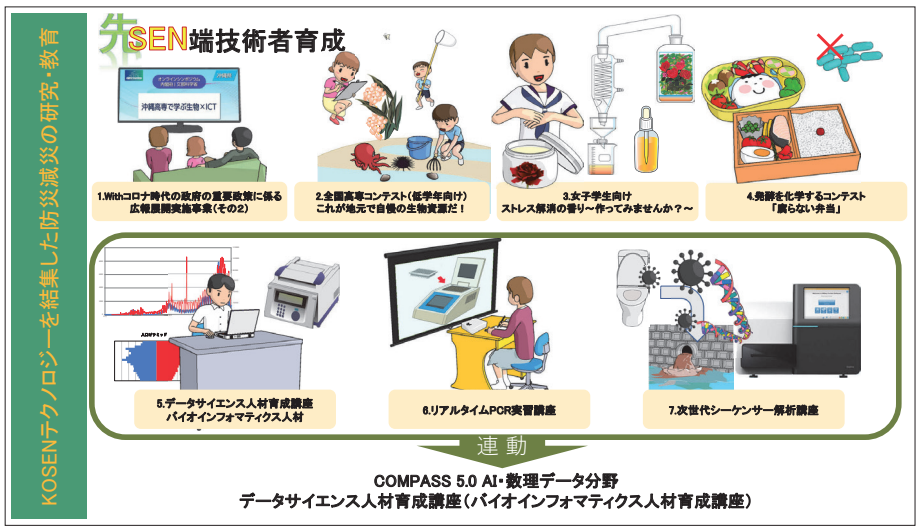
プレゼンテーションも自宅からオンライン参加

未来技術の社会実装教育

GEAR5.0の紹介：「令和３年度採択 GEAR 5.0」の中核拠点校を務めます

独立行政法人国立高等専門学校機構は、日本の未来技術をリードする「高専発！『Society 5.0型未来技術人財』育成事業」を実施しています。この事業は「GEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）」および「COMPASS 5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）」の二つのプロジェクトから構成されています。それらのプロジェクトを通じ、Society 5.0で実現する社会・経済構造の変化、技術の高度化、社会・産業・地域のニーズ変化を踏まえ、地域や社会の諸課題に自律的・主体的に取り組み、かつ生涯学び続ける学生を継続的に育成するためのカリキュラム点検（教育内容・方法）を行い、今後迎えるサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた「超スマート社会」を実現させるための一連の取り組みである Society 5.0時代における高専教育の質保証へ繋げます。ちなみに、Society 5.0とは、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会であり、「日本が目指すべき未来社会の姿」とされています。

この大型プロジェクトで沖縄高専は、令和３年度GEAR5.0の中核拠点校（研究総括：校長 伊原博隆、ユニットリーダー：生物資源工学科教授　池松真也）を務めます（令和３年度～令和５年度）。達成目標となる課題は、「防災・減災・防疫」です。全国の国立高専の中から、鶴岡高専・長岡高専・和歌山高専・宇部高専とユニットを組み、＜KOSENテクノロジーを結集した防災減災の研究・教育＞として“全国若年層のCOVID-19感染状況のモニタリング”、“感染性ウイルス等の防御・迅速診断法等の開発”、“災害時避難所での２次災害防止”などについて研究・開発を行っていきます。個々の進捗状況に関しましては、本校ホームページ、LINE等にて逐次情報発信していきますので、是非注目して下さい。



学生

学生定員・現員

令和３年５月１日現在

本科

学科	収容定員	現員					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
機械システム工学科	200	40(4)	45(2)	41(3)	33(2)	41(3)	200(14)
情報通信システム工学科	200	45(10)	42(4)	45(7)	41(9)	47(9)	220(39)
メディア情報工学科	200	44(15)	39(15)	43(10)	43(6)	57(16)	226(62)
生物資源工学科	200	40(18)	42(20)	36(20)	38(18)	40(14)	196(90)
計	800	169 (47)	168 (41)	165 (40)	155 (35)	185 (42)	842 (205)

※（注）（　）は女子で内数。

専攻科

専攻		収容定員	現員		
			第1学年	第2学年	計
創造システム工学専攻	機械システム工学コース	48	6(0)	4(0)	10(0)
	電子通信システム工学コース		4(0)	5(0)	9(0)
	情報工学コース		4(2)	3(1)	7(3)
	生物資源工学コース		10(1)	9(5)	19(6)
計		48	24 (3)	21 (6)	45 (9)

※（注）（　）は女子で内数。

入学志願者及び入学者

令和３年度入試実績

本科

学科	募集定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国子女	計	学力	推薦	帰国子女	計
機械システム工学科	40	39 (1)	15 (3)	0 (0)	54 (4)	25 (1)	15 (3)	0 (0)	40 (4)
情報通信システム工学科	40	30 (3)	23 (7)	0 (0)	53 (10)	21 (2)	23 (7)	0 (0)	44 (9)
メディア情報工学科	40	35 (10)	39 (16)	0 (0)	74 (26)	20 (6)	23 (9)	0 (0)	43 (15)
生物資源工学科	40	28 (12)	22 (11)	0 (0)	50 (23)	18 (7)	22 (11)	0 (0)	40 (18)
計	160	132 (26)	99 (37)	0 (0)	231 (63)	84 (16)	83 (30)	0 (0)	167 (46)

※（注）（　）は女子で内数。

専攻科

専攻		募集定員	志願者数			入学者数		
			学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	機械システム工学コース	24	8 (0)	1 (0)	9 (0)	5 (0)	1 (0)	6 (0)
	電子通信システム工学コース		5 (0)	0 (0)	5 (0)	4 (0)	0 (0)	4 (0)
	情報工学コース		1 (1)	3 (1)	4 (2)	1 (1)	3 (1)	4 (2)
	生物資源工学コース		6 (1)	6 (1)	12 (2)	4 (0)	6 (1)	10 (1)
計		24	20 (2)	10 (2)	30 (4)	14 (1)	10 (2)	24 (3)

※（注）（　）は女子で内数。

令和２年度入試実績

本科

学科	募集定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国子女	計	学力	推薦	帰国子女	計
機械システム工学科	40	32 (2)	10 (0)	0 (0)	42 (2)	31 (2)	10 (0)	0 (0)	41 (2)
情報通信システム工学科	40	29 (1)	22 (4)	0 (0)	51 (5)	24 (1)	19 (4)	0 (0)	43 (5)
メディア情報工学科	40	33 (9)	24 (10)	0 (0)	57 (19)	22 (7)	18 (8)	0 (0)	40 (15)
生物資源工学科	40	28 (10)	21 (12)	0 (0)	49 (22)	24 (10)	18 (10)	0 (0)	42 (20)
計	160	122 (22)	77 (26)	0 (0)	199 (48)	101 (20)	65 (22)	0 (0)	166 (42)

※（注）（　）は女子で内数。

専攻科

専攻		募集定員	志願者数			入学者数		
			学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	機械システム工学コース	24	8 (0)	1 (0)	9 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)
	電子通信システム工学コース		5 (0)	3 (0)	8 (0)	1 (0)	3 (0)	4 (0)
	情報工学コース		5 (0)	1 (1)	6 (1)	1 (0)	1 (1)	2 (1)
	生物資源工学コース		0 (0)	9 (5)	9 (5)	0 (0)	9 (5)	9 (5)
計		24	18 (0)	14 (6)	32 (6)	5 (0)	14 (6)	19 (6)

※（注）（　）は女子で内数。

平成31年度入試実績

本科

学科	募集定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国子女	計	学力	推薦	帰国子女	計
機械システム工学科	40	35 (3)	6 (0)	0 (0)	41 (3)	34 (3)	6 (0)	0 (0)	40 (3)
情報通信システム工学科	40	40 (5)	10 (2)	0 (0)	50 (7)	32 (4)	10 (2)	0 (0)	42 (6)
メディア情報工学科	40	32 (7)	18 (4)	0 (0)	50 (11)	26 (6)	16 (4)	0 (0)	42 (10)
生物資源工学科	40	24 (8)	11 (10)	0 (0)	35 (18)	23 (8)	11 (10)	0 (0)	34 (18)
計	160	131 (23)	45 (16)	0 (0)	176 (39)	115 (21)	43 (16)	0 (0)	158 (37)

※（注）（　）は女子で内数。

専攻科

専攻		募集定員	志願者数			入学者数		
			学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	機械システム工学コース	24	4 (0)	5 (0)	9 (0)	0 (0)	5 (0)	5 (0)
	電子通信システム工学コース		2 (0)	10 (1)	12 (1)	2 (0)	10 (1)	12 (1)
	情報工学コース		6 (0)	1 (0)	7 (0)	2 (0)	1 (0)	3 (0)
	生物資源工学コース		8 (4)	11 (5)	19 (9)	1 (0)	8 (4)	9 (4)
計		24	20 (4)	27 (6)	47 (10)	5 (0)	24 (5)	29 (5)

※（注）（　）は女子で内数。

地域別入学者数

出身市町村別学生数

令和３年５月１日現在

地　区	出身市町村	本科					専攻科		計	地区計
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年		
北部地区	国頭村	0	1	0	0	0	0	0	1	129
	大宜味村	0	0	1	0	0	0	0	1	
	東村	0	1	0	0	0	0	0	1	
	今帰仁村	1	1	4	1	2	0	0	9	
	本部町	5	1	1	2	3	1	0	13	
	名護市	14	10	11	18	22	3	1	79	
	宜野座村	1	1	0	0	2	0	0	4	
	金武町	2	1	1	1	1	0	0	6	
	伊江村	1	1	0	0	0	0	0	2	
	恩納村	2	1	1	1	3	0	1	9	
	伊平屋村	1	1	1	0	1	0	0	4	
中部地区	うるま市	11	12	11	6	12	2	1	55	308
	読谷村	8	8	6	6	3	2	2	35	
	嘉手納町	1	0	1	1	0	0	0	3	
	沖縄市	13	11	24	17	15	2	2	84	
	北谷町	2	1	1	1	4	1	1	11	
	宜野湾市	9	9	5	9	8	2	2	44	
	北中城村	1	2	2	2	0	0	0	7	
	中城村	1	0	2	0	0	0	0	3	
	西原町	13	12	15	13	13	0	0	66	
那覇・浦添地区	浦添市	9	12	9	6	6	4	2	48	226
	那覇市	33	36	25	35	43	2	4	178	
南部地区	豊見城市	7	5	5	4	10	0	2	33	140
	糸満市	4	12	8	10	10	2	0	46	
	八重瀬町	6	3	4	4	2	0	0	19	
	南城市	2	3	3	5	4	0	2	19	
	与那原町	1	0	1	2	1	0	0	5	
	南風原町	6	3	1	0	5	0	1	16	
	久米島町	0	0	0	0	2	0	0	2	
	北大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	
宮古地区	宮古島市	3	5	5	3	3	0	0	19	19
八重山地区	石垣市	5	3	4	2	3	1	0	18	20
	竹富町	0	0	0	0	2	0	0	2	
県　内　計		162	156	152	149	180	22	21	842	
県外	宮城県	0	1	0	0	1	0	0	2	
	茨城県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	埼玉県	0	1	2	1	0	0	0	4	
	千葉県	2	1	0	0	0	1	0	4	
	東京都	0	1	0	1	0	0	0	2	
	神奈川県	0	0	0	0	1	0	0	1	
	群馬県	0	1	0	0	0	0	0	1	
	滋賀県	1	2	0	0	0	0	0	3	
	大阪府	1	1	0	0	0	0	0	2	
	奈良県	0	0	0	1	0	0	0	1	
	香川県	1	0	0	0	0	0	0	1	
	愛媛県	0	1	0	0	0	0	0	1	
	福岡県	0	0	0	1	1	1	0	3	
	大分県	0	1	0	0	0	0	0	1	
	佐賀県	0	1	3	0	0	0	0	4	
	鹿児島県	2	1	3	0	0	0	0	6	
県　外　計		7	12	9	4	3	2	0	37	
国外	モンゴル国	0	0	2	2	2	0	0	6	
	マレーシア	0	0	1	0	0	0	0	1	
	台湾	0	0	1	0	0	0	0	1	
国　外　計		0	0	4	2	2	0	0	8	
合　計		169	168	165	155	185	24	21	887	

高等学校等就学支援金制度

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

※就学支援金は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではありません。学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当するものです。授業料と就学支援金との差額分については学生本人に負担していただくことになります。

【支給対象者】

本科１年生～３年生で、定められた所得判定基準未満の世帯が就学支援金支給の対象となり、学校に申請を行うことにより、下表に記載の金額が支給されます。

但し、①本校入学前に高等学校等を卒業した学生、②留年、休学等により在学期間が通算して36月を超える学生は対象となりません。

所得判定基準等

市町村民税の課税標準額 × 6% －市町村民税の調整控除の額（※） （保護者等合算額）	就学支援金支給額 （月額）	授業料負担額 （月額）
304,200円以上～	0円（支給なし）	19,550円
154,500円以上～304,200円未満	9,900円（一律支給のみ）	9,650円
0円（非課税）～154,500円未満	19,550円（加算額9,650円）	0円

※６%は市町村民税の標準税率（標準税率との関係で、調整控除の額について指定都市の場合は調整（3/4 を乗じる）が必要）。また、調整控除とは、平成19 年に国から地方へ税源が移譲したことに伴い生じる個人住民税と所得税の人的控除の差額に起因する負担増を調整するための控除。

奨学生

日本学生支援機構奨学金 第一種及び第二種奨学金貸与月額表

学年		第一種奨学金 自宅通学	第一種奨学金 自宅外通学
本科	1年	21,000 円又は 10,000 円	22,500 円又は 10,000 円
本科	2年	21,000 円又は 10,000 円	22,500 円又は 10,000 円
本科	3年	21,000 円又は 10,000 円	22,500 円又は 10,000 円
本科	4年	45,000 円・30,000 円・(20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・30,000 円・(20,000 円) から選択
本科	5年	45,000 円・30,000 円・(20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・30,000 円・(20,000 円) から選択
専攻科	1年	45,000 円・30,000 円・(20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・30,000 円・(20,000 円) から選択
専攻科	2年	45,000 円・30,000 円・(20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・30,000 円・(20,000 円) から選択

※（　）は平成30年度入学者より選択可能。

学年		第二種奨学金 自宅通学	第二種奨学金 自宅外通学
本科	4年	20,000 円から 120,000 円までの金額の中から１万円単位で選択可能	
本科	5年		
専攻科	1年		
専攻科	2年		

令和２年度奨学金受給実績（高等教育の修学支援新制度除く）

区分			本科 1年	本科 2年	本科 3年	本科 4年	本科 5年	専攻科 1年	専攻科 2年	計
在学者数			169	162	159	185	141	21	27	864
日本学生支援機構	第一種	自宅通学	3	0	1	8	7	2	2	23
日本学生支援機構	第一種	自宅外通学	12	25	22	30	18	4	2	113
日本学生支援機構	第二種		0	0	0	4	0	0	4	8
その他の機関			4	5	5	1	6	1	2	24
計			19	30	28	43	31	7	10	168
制度利用者の割合			11.2%	18.5%	17.6%	23.2%	22.0%	33.3%	37.0%	19.4%

主な学費

就学費用

入学料	授業料		日本スポーツ振興センター共済掛金	
84,600 円	年	234,600円	年	770円

高等教育の修学支援新制度

令和２年４月から、要件を満たす本科４年生～５年生及び専攻科生に対し、高等教育の修学支援新制度が適用され、学校に申請を行うことにより、授業料等の減免及び給付型奨学金の給付が受けられます。なお、本科1年生～3年生は「高等学校等就学支援金制度」により授業料の支援がありますので、本制度の対象外となります。

授業料等減免の上限額（年額）※

入学料（専攻科）	授業料
84,600円	234,600円

給付型奨学金の給付額（月額）※

自宅	自宅外
17,500円	34,200円

※住民税非課税世帯の学生の場合。住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、住民税非課税世帯の学生の2/3又は1/3の支援額。

令和２年度実績

区分		本科 4年	本科 5年	専攻科 1年	専攻科 2年	計
在学者数		185	141	21	27	374
前期	第Ⅰ区分	27	25	3	3	58
前期	第Ⅱ区分	21	12	5	2	40
前期	第Ⅲ区分	13	10	1	1	25
前期	計	61	47	9	6	123
前期	制度利用者の割合	33.0%	33.3%	42.9%	22.2%	32.9%
後期	第Ⅰ区分	31	29	5	3	68
後期	第Ⅱ区分	13	15	1	2	31
後期	第Ⅲ区分	15	5	3	1	24
後期	計	59	49	9	6	123
後期	制度利用者の割合	31.9%	34.8%	42.9%	22.2%	32.9%

令和３年３月卒業者の進路状況（本科）

令和３年５月１日現在

	区　分	学　科				合　計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業者数※2	29	39	35	34	137
進学状況	進学希望者数	16	9	5	17	47
	進学者数	15	9	5	16	45
	うち３年次編入等進学者数	9	4	0	6	19
	うち専攻科進学者数	6	4	4	10	24
	うち専門学校・その他進学者数	0	1	1	0	2
	進学決定率（進学者数／進学希望者数）	93.8%	100.0%	100.0%	94.1%	95.7%
	進学先※１	沖縄工業高等専門学校専攻科（6） 香川大学 鹿児島大学 九州工業大学 千葉工業大学 東京大学 名古屋工業大学 名古屋大学 琉球大学（2）	沖縄工業高等専門学校専攻科（4） 鹿児島大学 東京農工大学 豊橋技術科学大学 横浜国立大学 沖縄高専研究生	沖縄工業高等専門学校専攻科（4） 沖縄高専研究生	沖縄工業高等専門学校専攻科（10） 岡山大学 九州工業大学 東京農工大学 長岡技術科学大学（2） 名桜大学	
就職状況	就職希望者数	13	30	29	17	89
	就職者数	12	30	27	16	85
	就職率（就職者数／就職希望者数）	92.3%	100.0%	93.1%	94.1%	95.5%
	就職先企業名※１ （県内） 県内に本社のある企業	沖縄電力株式会社 沖縄県警察 名護市役所	沖縄セルラー電話株式会社（2） 日本トランスオーシャン航空株式会社	株式会社ビーンズラボ（2） 株式会社ヴィッツ沖縄	株式会社太名嘉組	
		計３名	計３名	計３名	計１名	県内計 10 名
		就職者に占める割合　25%	就職者に占める割合　10%	就職者に占める割合　11%	就職者に占める割合　6%	就職者に占める割合　12%
	就職先企業名※１ （県外） 県外に本社がある企業	出光興産株式会社（3） 株式会社 JAL エンジニアリング 株式会社ウイルテック 株式会社タマディック 東京エレクトロン株式会社 日本精工株式会社 矢崎総業株式会社	株式会社サイバーエージェント ソフトバンク株式会社 NTT データソフィア株式会社 出光興産株式会社（2） 株式会社 JAL エンジニアリング エスアイエステクノサービス株式会社（2） 矢崎総業株式会社 日本無線株式会社 アマゾンジャパン合同会社 関西電力株式会社 NTT東日本グループ会社（3） グリー株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 ENEOS 株式会社 株式会社コンピュータマインド（2） 三菱地所コミュニティ株式会社 NTT コムソリューションズ株式会社 トランスコスモス株式会社 KDDI エンジニアリング株式会社 株式会社アルプス技研（2） 富士通株式会社	株式会社日立情報通信エンジニアリング（3） ピクシブ株式会社 ワンダープラネット株式会社 大阪シーリング印刷株式会社 株式会社メンバーズ（3） 株式会社NSコンピュータサービス 株式会社ビーネックスソリューションズ 株式会社システムぜウス 株式会社トヨタシステムズ 株式会社日立ハイシステム 21 NTT東日本グループ会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 株式会社カプコン ヤフー株式会社 株式会社サイバーコネクトツー 株式会社スターシステム アイフォーコム株式会社 株式会社ハイマックス カーナベル株式会社 株式会社ソフトウェアサイエンス	サントリーホールディングス株式会社（3） 三洋化成工業株式会社 花王株式会社（2） キリンビバレッジ株式会社 株式会社三井化学分析センター 株式会社NTTデータフロンティア KMバイオロジクス株式会社 雪印メグミルク株式会社（2） 伊藤忠製糖株式会社 日本クッカリー株式会社 有限会社瑞穂農場	
		計９名	計 27 名	計 24 名	計 15 名	県外計 75 名
		就職者に占める割合　75%	就職者に占める割合　90%	就職者に占める割合　89%	就職者に占める割合　94%	就職者に占める割合　88%

※１　同一企業に複数名の学生が就職した場合，または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を（　）内に示しています。
※２　卒業者数には留学生を含む。
※３　メディア情報工学科卒業者のうち１名の留学生は帰国。

令和３年３月修了者の進路状況（専攻科）

令和３年５月１日現在

	区　分	コース				合　計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
	修了者数	5	10	1	8	24
進学状況	進学希望者数	1	3	0	3	7
	進学者数	1	3	−	3	7
	うち大学院等進学者	1	2	−	2	5
	うち専門学校・その他進学者数	0	1	−	1	2
	進学決定率（進学者数／進学希望者数）	100.0%	100.0%	−	100.0%	100.0%
	進学先※	長岡技術科学大学大学院	熊本大学大学院 広島大学（３年次編入） 北陸先端科学技術大学院大学		東京大学大学院 琉球大学大学院 朝日医療専門学校	
就職状況	就職希望者数	4	7	1	5	17
	就職者数	4	7	1	5	17
	就職率（就職者数／就職希望者数）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	就職先企業名 （県内） 県内に本社のある企業	沖電グローバルシステムズ株式会社	沖縄セルラー電話株式会社			
		計１名	計１名	計０名	計０名	計２名
		就職者に占める割合　25%	就職者に占める割合　14%	就職者に占める割合　0%	就職者に占める割合　0%	就職者に占める割合　12%
	就職先企業名 （県外） 県外に本社がある企業	株式会社グランゼーラ 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター スチールプランテック株式会社	KDDI 株式会社 NTT 東日本グループ 株式会社IHIエスキューブ（2） 富士電機株式会社（2）	ヤフー株式会社	旭化成株式会社 花王株式会社（2） 株式会社オーエスデザイン 中外製薬工業株式会社	
		計３名	計６名	計１名	計５名	計 15 名
		就職者に占める割合　75%	就職者に占める割合　86%	就職者に占める割合　100%	就職者に占める割合　100%	就職者に占める割合　88%

※1　同一企業に複数名の学生が就職した場合，または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を（　）内に示しています。

卒業生のコメント

「卒業にあたって」

機械システム工学科　５年　大兼久（オオガネク）　里　葉（リヨ）

沖縄高専に入学して5年が経ち、振り返ればいろいろなことが思い出されますが、すべてがよい思い出であり、今の自分を形作る糧となっているように思えます（都合よく、良い思い出にしているだけかもしれませんが…）。憧れだけで入学を決めた沖縄高専でしたので、入学当初は明確な目標もなく、やりたいことやなりたい自分をイメージすることができないまま日々過ごしていました。当然、勉強にも身が入らず、漠然と時間だけが過ぎていたように思います。それでも、時間が経つにつれ、周りを見渡すことができるようになり、寮生活や部活動を通じて、誰かのために行動することの大切さ、素晴らしさを学ぶことができたと思っています。さらに、人と人との繋がりの重要性を身に染みて感じることで、なぜか勉強にもそれなりに真面目に取り組むようになりました。きっと、周りのみんなに影響されたのだと思います。おかげで、スムーズに卒業までたどり着けたように思います（原稿執筆時点では卒業見込みですが（^^;））。

５年生を目前にして、沖縄高専で学んだ知識や技術を活かし、社会に貢献することを目的に始めた就職活動でしたが、様々なことを調べているうちに、地域に直接貢献できる仕事に就きたいと思うようになりました。そこから、沖縄高専の５年間の中で、最大限に真面目に考え抜いて、知識や技術よりも、「誰かのために行動する」ことを重視しようと思いました。その結果、幼い頃から興味のあった警察官を目指すことにしました。５年間学んだ機械工学とは縁のないように思える職業ですが、自分が得た知識、技術は必ず生きてくるものと考えていますし、何より沖縄高専の教育理念にある「人々に信頼され」には十分合致した職業だと思っています。このように自分でしっかり考えて進路を決めることができるようになれたのも、沖縄高専で過ごしたからだと強く思っています。

最後になりますが、進路の選択はこれからの人生に大きく影響を与えるものなので、本当にやりたいと思えることをできるように、向上心を忘れず、常に自分を磨き続けてください。

学生寮

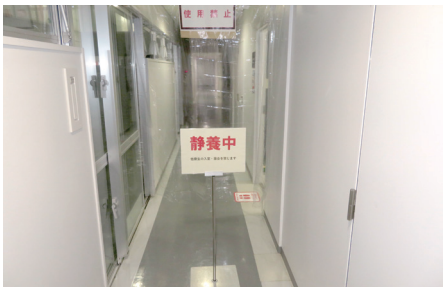
新型コロナウイルス対応について

現在学生寮では、３つの密を避ける新しい生活様式の実現のため、従来の日課とは異なる特別日課を設定しています。毎朝・毎晩の体温測定・体調報告、寮内でのマスクの着用、寮内各所への消毒用アルコールの設置、レストランでのパーテーションの設置や座席数の削減、食事時間や入浴時間を長くして密集を避ける等で感染防止に努めています。

また、学生寮１Ｆ入口にサーマルカメラを導入し、帰省から寮に戻ってきた寮生の、体温確認をスムーズに行えるようにしています。

更に、体調不良時に速やかに帰省できない場合の静養室を、男子寮に８部屋、女子寮に４部屋確保しております。

サーマルカメラ



静養エリア前

浴室靴箱

学生寮経費

（令和３年度）

寄　宿　料	800 円（月額）
寮　管　理　費	4,300 円（月額）
居　室　電　気　料	前月使用分（月額）
給 食 費（３食）	1,080 円（日額）

※ 居室電気料は寮管理費と一緒に振替を行います。

居室数

男子寮	女子寮	合計
412 室	142 室	554 室

※ 居室は全て１人部屋です。

レストラン

レストランには、寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。また晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめます。

図書館 Library

図書館 (メディア棟４階) は、教育・研究を支援する拠点の１つとして機能しています。

館内には自然科学や工学の専門書をはじめ、一般教養に役立つ資料、学術雑誌、百科事典、CD-ROM、DVD、ビデオテープ、カセットテープ、県内・本土・英字新聞、英語多読・多聴図書、高専・大学資料等を所蔵しています。

さらに、電子ジャーナル・データベース・電子図書システムを導入済みで多角的に「知」を培う環境提供を継続しています。

多くのことを学び、知識を広める情報収集活動の場・学習の場として活用して下さい。

開館時間

通常期	月～金曜日	８時 40 分～ 20 時
	土曜日	９時～ 17 時
休業期	月～金曜日	８時 40 分～ 17 時
	（週末開館無し）	

休館日

日曜・祝祭日
年末年始
休業期の土曜

施設

閲覧室：740㎡
座席数：125 席
AV ブース：２席
メディア・ホール
自動貸出機
図書盗難防止システム
蔵書検索用端末

蔵書数

【図書】（冊）括弧内は内数で外国語図書

令和３年５月１日現在

総記	哲学･心理学	歴史･地理	社会科学	自然科学	技術･工学	産業	芸術･体育	言語	文学	計
5,729 (326)	2,596 (104)	3,244 (117)	8,615 (334)	15,048 (1,341)	11,996 (959)	1,753 (35)	5,566 (1,226)	19,046 (16,751)	8,431 (85)	82,024 (21,278)

【雑　　誌】購読タイトル数 55　保有バックナンバー 16,050 冊
【新　　聞】８紙
【視聴覚資料】1,864 点

利用状況

年度	開館日数	入館者数	図書貸し出し冊数				雑誌新聞電子ジャーナル閲覧数		
			総数	学生	教職員	学外利用者	雑誌	新聞	電子ジャーナル
令和2年度	177	17,228	5,147	3,882	1,238	27	220	726	2,525

情報検索データベース・電子ジャーナル

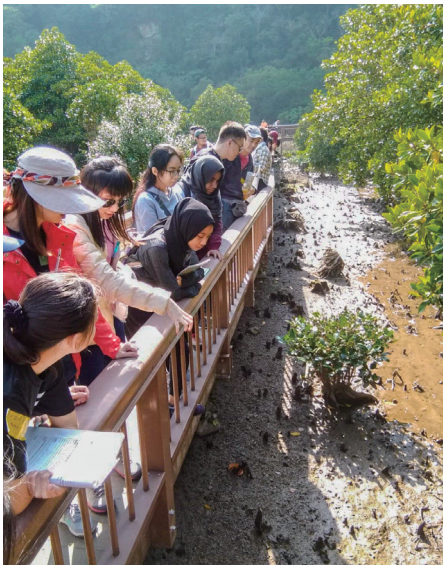
電子システム	概要
JDream Ⅲ	科学技術全般文献データベース
CiNii Articles	国内論文情報データベース
Science	米国科学振興協会発行の雑誌「Science」の電子版
Science Direct	エルゼビア社の電子ジャーナル

電子システム	概要
MathSciNet	米国数学会の数学文献データベース
ジャパン・ナレッジ	事典・辞書データベース
理科年表プレミアム	国立天文台が編纂する自然科学系データブック
Maruzen eBook Library	電子図書システム

技術支援室

技術支援室は、実践的な教育・研究および地域貢献活動に対して、専門的な知識や技術を活かして効果的・効率的に沖縄高専の教育研究を支援するための組織です。本室には室長と９名の技術職員が在籍し、実習工場系および電気電子情報系、生物科学分析系の技術分野を中心に担当しています。実験・実習および卒業研究においては教員との連携の下、専門的な知識・技術に基づいた技術支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

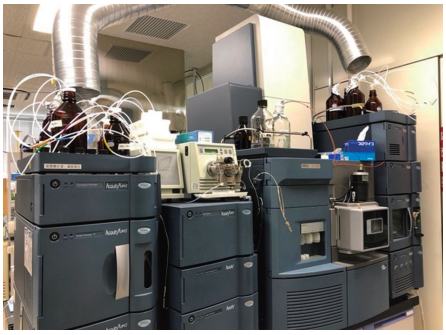
授業で旋盤実習に取り組む学生と指導にあたる室員



Okinawa Kosen Camp で受け入れたシンガポールからの研修生に、地元沖縄の自然と動植物を紹介しました

オープンキャンパスでは機械工作に取り組みました

岩手県、岩手県工業技術センター、沖縄高専が共同で実施した農水省補助事業において沖縄高専が開発した衝撃波処理装置



天然物から有用な化合物を分離し、分子の精密な質量を測定する分析機器

職　名		氏　名	技　術　分　野
室　　長		武村　史朗	機械システム工学科・教授
技術長代理・副技術長 技　術　専　門　員		藏屋　英介	実験装置の開発、天然物・食品の機能性評価、におい・香りの分析評価
実習工場系	技　術　主　査 技術専門職員	具志　孝	汎用工作機械、CAD、CAM、NC 工作機械
	技術専門職員	大嶺　幸正	NC 工作機械、汎用工作機械、エンジン動力の性能評価
電気電子情報系	技　術　主　査 技術専門職員	比嘉　修	高電圧装置設計・開発、水中衝撃波関連技術、高速度カメラを用いた流体可視化技術、パルスパワー技術
	技術専門職員	新田　保敏	情報処理、ネットワーク
	技術専門職員	佐竹　卓彦	電子回路、情報通信、福祉工学
	技　術　職　員	仲間　祐貴	ファシリティマネジメント（FM）に関する情報支援技術、情報処理
生物科学分析系	技術専門職員	渡邊　謙太	バイオイメージングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究
	技　術　職　員	白幡　大樹	海産生物の生態、遺伝子工学

夢工場

沖縄高専に入学した学生は、創造力にあふれものづくりに強い関心があり、その希望を叶える場として夢工場があります。学生の安全のため常に、技術職員が常駐しわからない事、やってみたい事があればいつでも技術相談ができる体制です。また夢工場の設備は、沖縄高専の学生なら自由に使用する事ができ、工具の貸出も行っています。使い方のわからない工具や工作機械の使用方法も教えています。さらに難しい機械加工の場合は、一緒にものづくりの手助けを行っています。

夢工場は、機械システム工学科の実習の場でもあり基礎的なものづくりに関連する実習を行っています。他にも、航空整備基礎実習、卒業研究、創造研究など夢工場では様々な活動が行える環境が整っております。また夢工場の隣には、ロボコンの部室があり、ロボットコンテストに向けたロボット製作のバックアップも行っています。

施設と設備

■ CNC 加工室
- 5 軸制御マシニングセンター
- ワイヤー放電加工機
- CNC 旋盤

■運転・解析室
- 粗さ測定器
- 工具顕微鏡

■熱機関性能試験室

■汎用工作機械工場
- 旋盤
- 立フライス盤
- 複合フライス盤
- NC フライス盤
- 平面研削盤
- NC 円筒研削盤
- ラジアルボール盤
- 帯鋸盤
- 高周波溶解炉
- TIG、MAG アーク溶接システム

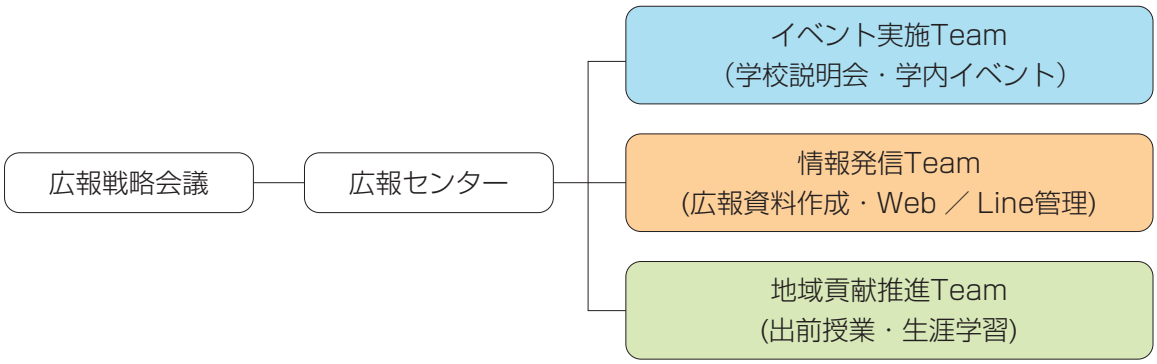
学生が実習で使う工作機械

実習での学生の成果物

広報センター

沖縄工業高等専門学校は、中学生の皆さんやその保護者、県内の教育機関等に向けて本校の魅力を積極的に広報活動する目的として、2019年度から広報センターを設立しました。本センターでは広報資料や公式ホームページの更新、学校説明会等多岐に渡る活動を行っています。

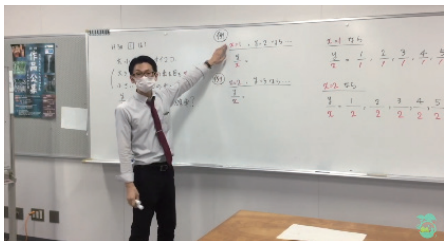
広報組織体制



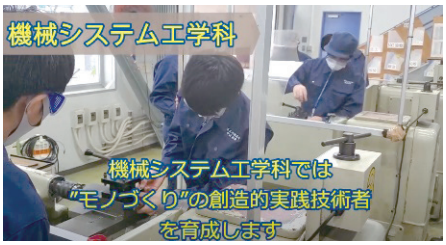
■ 2020 年度広報実績

～公式LINEのスタート～

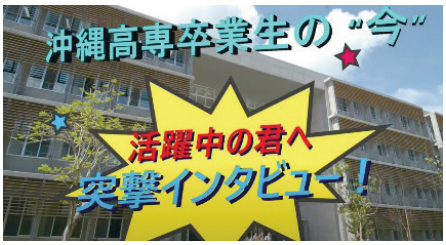
昨年度10月1日から、広報センターでは公式Lineをスタートさせました。昨年度３月末では登録者数が949名となり、半年間で多くの方に友だち登録をしてもらいました。主に単元別数学対策講座、他学科紹介動画、その他卒業生インタビュー等、主に本校を志望する中学生を対象として様々な情報発信しています。



単元別数学対策講座



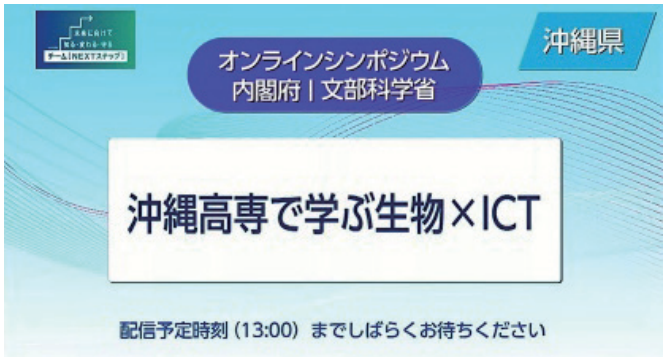
学科紹介動画



卒業生へインタビュー動画

■～全国政府広報展開事業「沖縄高専で学ぶ生物×ＩＣＴ」の発信～

2020年11月において、内閣府のWithコロナ時代各種政策にて採択された全国政府広報展開事業「沖縄高専で学ぶ生物×ＩＣＴ」では、本校女子学生を中心としてYouTubeから本校の魅力を大々的に発信しました。



オンラインシンポジウム

オンラインシンポジウム２
（※「政府広報：特集 With コロナ時代の各種政策」掲載画像）

グローバル交流推進センター

近年、日本の学校教育においてグローバル人材育成が強く求められています。グローバル交流推進センターは、国際的な舞台で活躍できるグローバル人材を育成するために、沖縄高専の教育・研究の国際化と学生・教職員の国際交流を推進する組織です。その為に、国際交流を推進する教育・研究体制の整備の支援と留学生・研修生の積極的な受け入れ、本校学生の海外派遣の双方向交流を推進しています。

2020年度の活動から

2020年度は全世界的に広がってしまった新型コロナウィルス感染症のため、本センターの主活動となる海外の学生や研修生の受け入れ、本校学生の海外派遣等の双方向交流の活動の場を奪われてしまいました。そのような先の見えない中、それでも一筋の光となるような明るい話題もありましたのでご紹介いたします。

1．ISIE2020における銀賞受賞

本校の情報通信システム工学科4年（当時）の金城琉馬さんが、オンラインで開催されたISIE2020 (International Symposium on Innovative Engineering 2020) にて見事に銀賞を受賞いたしました。ISIEとは、全国国立高専第5ブロック九州沖縄地区の9高専と、マレーシアのペトロナス工科大学間で2017年から開催されている国際会議です。

2．英語による旅行書 Lonely Planet シリーズの充実

前述したコロナ禍でどこにも行けないのであれば、せめて「脳内海外旅行」でもしようじゃないかとの思いから、Lonely Planetシリーズを集めてみました。本シリーズは「地球の歩き方」の英語版と思えばよいでしょうか。ヨーロッパ中心ですが、留学生に活用してほしいとの思いから*JAPAN* や *TOKYO* なども揃えました。

国際交流実績

【派遣】　令和２年度　留学、海外交流プログラム等による派遣

プログラム名称等	派遣国	派遣先	人数	期　　間
トビタテ！留学 JAPAN（大学生等コース）	ニュージーランド	語学学校、オークランド大学	1	2019年4月10日~2020年11月30日
合　　計			1	

※Ｒ２年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、新規派遣延期・中止

【受入】 令和２年度 外国人留学生、海外交流プログラム等による受入れ

プログラム名称等	出身国	人数	研　修　期　間
国費外国人留学生	カンボジア	1	2018年４月１日～2021年３月31日
	モンゴル	1	2019年４月１日～2022年３月31日
	モンゴル	1	2020年４月１日～2023年３月31日
	モンゴル	1	2021年４月１日～2024年３月31日
政府派遣留学生	モンゴル	1	2018年４月１日～2021年３月31日
	モンゴル	1	2019年４月１日～2022年３月31日
	モンゴル	1	2020年４月１日～2023年３月31日
	モンゴル	1	2021年４月１日～2024年３月31日
	マレーシア	1	2021年４月１日～2024年３月31日
合　　計		9	

※Ｒ２年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、短期研修生の受入中止

受入海外留学生（合計）：	9
受入海外研修生（合計）：	0

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としています。具体的には、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行います。

また、キャリア教育センターでは、本校卒業生や保護者からの相談も受け付けております。

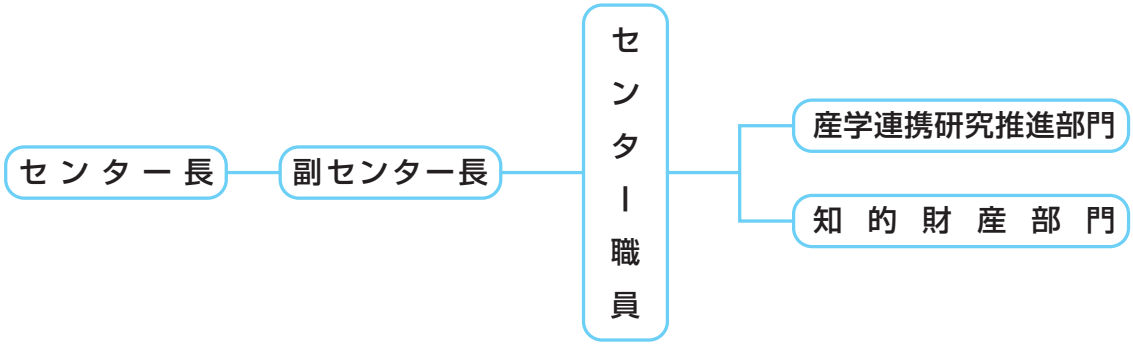
キャリア教育センター室の様子

身だしなみ・マナーセミナーの様子（オンライン実施）

地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校の教職員の教育・研究の成果を地域に発信し、また地域・産業界のニーズを受け、技術開発及び産業の活性化に貢献します。また、生涯学習、地域文化交流及び地域課題の解決に取り組みます。当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」、「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっています。

地域連携研究推進センター組織図



令和２年度技術相談件数一覧

地域産業界との連携の一つとして、現場で抱えられている技術的問題等についてのご相談を受け付けております。

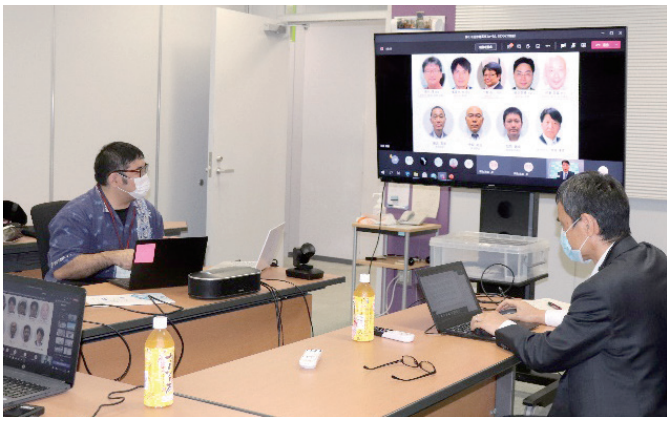
本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用し、相談者に対する技術的な問題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っております。

令和２年度から初めての試みとなるリモートでの技術相談を実施しており、令和２年度は定期技術相談14件、随時技術相談６件を実施し、うち１件が共同研究へ発展いたしました。

産業界との連携

平成16年4月に沖縄県内の経済･産業界を中心として、沖縄高専の教育･研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置されました。企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われています。また、現在、県内外の113の企業団体及び25の個人会員で組織しています。

平成 31 年度 沖縄高専産学連携協力会総会の様子
令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での開催となった。



高専フォーラム（オンライン開催）の様子

令和２年12月22日（火）に名護市×浦添市 市制50周年企画コラボ商品であるスパークリング・カクテル「Cheers ！（チアーズ）」の販売プレスリリースを実施いたしました。

沖縄高専では名護市および浦添市と包括的な連携協定をそれぞれ締結しており、2020年に偶然にも両市が市制50周年を迎えるため、名護市の特産品であるシークヮーサーと浦添市の特産品である桑の実（マルベリー）を使用して何か商品の開発ができないか、と提案したものが実現する形となりました。

当該商品の商品名「Cheers ！」と弾ける果汁がインパクトに残るラベルデザインを本校の学生が考案いたしました。考案した学生は、「実際に自分自身がお店でどのようなラベルデザインだったら手に取るか」を想像してデザインを作成し、カクテルの色と商品名の可愛さが統一された仕上がりとなりました。

共同研究・受託研究とは異なる、学生も参加した新しい連携の形となりました。

「Cheers ！」販売プレスリリースの様子

産業連携協力会との活動実績

令和２年12月２日（水）および12月９日（水）にそれぞれ『沖縄工業高等専門学校　オンライン業界研究会』を開催いたしました。本研究会は学生のキャリア教育の一環として、参加企業による業界、会社概要等の説明を行い、学生の職業意識の高揚に資すると共に、企業の各業界・会社の理解促進を図ることを目的としております。

令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テレビ会議システムを利用したオンラインでの開催となりましたが、２日間で会員企業19社が参加し、学生達からは「コロナ禍の中で様々な業界について知ることができた」と好評を得ておりました。

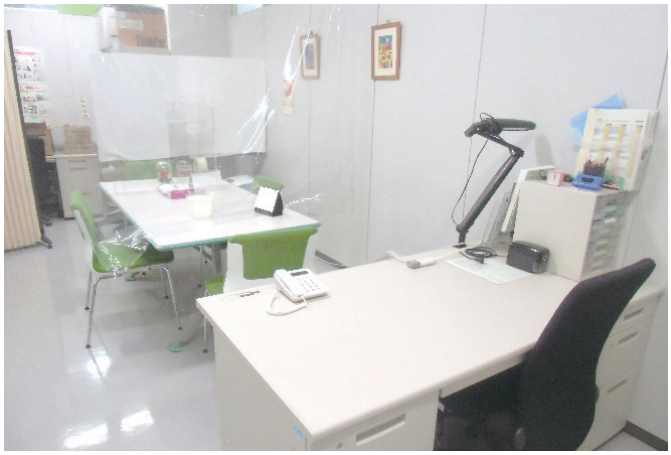
今後も会員企業と学生との距離を縮めていけるような機会を設けていきます。

平成 31 年（令和元年）度の業界研究会の様子

学生相談・支援室

学生相談・支援室は、学生権利擁護の観点から、学生、保護者、教職員から寄せられる相談に応じ、安心して相談できる環境を提供します。臨床心理士の資格をもつカウンセラー（非常勤）が、授業期間中の平日は毎日、相談員として相談に応じています。また、令和３年度より、週２日ソーシャルワーカーが勤務しており、連携した支援体制づくりを行っています。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し、学生生活を改善していくことができるように、学内外の連携を強化し、必要な支援の調整にあたります。

昨今のコロナ禍の対応として、オンラインでも相談もできるようになっています。



カウンセリングルームの様子

サポートルームの様子

情報処理センター

本校では、教室や実験室だけでなく、学生寮も含め建物内のほとんどの場所でネットワークが使える環境を整えております。情報処理センターではサーバやネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、運用を行っています。また、学生が活用しているノートパソコンにトラブルが発生した際の技術相談も行っています。

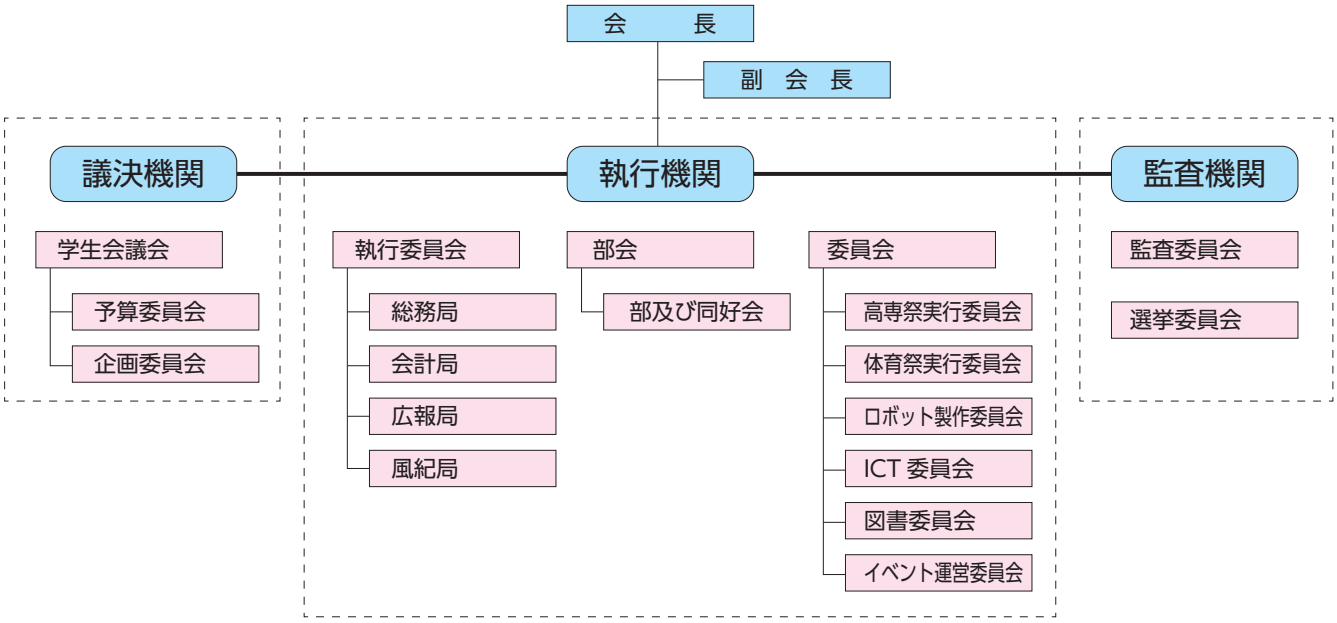
ネットワーク管理室のサーバの一部

学生への技術相談の様子

学生会

＜学生会組織＞

本校では、「学校の指導のもとに、学生の自主的な活動を通して、会員それぞれの人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資することを目的」として、学生全員で構成する学生会を設置しております。学生会の活動には、会長をはじめとする執行委員会の活動及びそれぞれの目的を持った部会、各種委員会の活動があります。



九州沖縄地区高専体育大会主要実績

開催年度	種　目	成　績
平成29年度	バスケットボール競技 女子	優勝（全国大会3位）
	テニス競技 男子ダブルス	準優勝
	テニス競技 女子ダブルス	準優勝
	水泳競技 女子100m平泳ぎ	2位
平成30年度	バスケットボール競技 女子	優勝（全国大会3位）
	テニス競技 女子ダブルス	優勝
	陸上競技 男子棒高跳び	2位
	水泳競技 男子200mバタフライ	2位
	水泳競技 女子100m平泳ぎ	2位
令和元年度	陸上競技 男子棒高跳び	優勝
	テニス競技 男子シングルス	準優勝

コンテスト関係主要実績

＜ロボットコンテスト（九州沖縄地区大会）＞

開 催 年 度	チ ー ム 名	成　　績
平成26年度	沖縄高専 A チーム	アイデア賞（全国大会出場）
令和元年度	沖縄高専 A チーム	技術賞
令和2年度	沖縄高専 A チーム	特別賞

＜プログラミングコンテスト＞

開 催 年 度	部　　門	成　　績
平成29年度	自由部門	特別賞
平成30年度	課題部門	特別賞
令和元年度	課題部門	特別賞

＜その他のコンテスト＞

開 催 年 度	大　会　名	成　　績
平成30年度	パソコン甲子園 モバイル部門	グランプリ
	起業家甲子園	NICT 賞
令和元年度	高専ワイヤレス IoT 技術実証コンテスト 5G活用部門	ビジネスクリエイト大賞
令和2年度	全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト	矢崎賞

体育祭

高専祭

ロボットコンテスト

高専体育大会

女性教員の活躍

独立行政法人国立高等専門学校機構では、「男女共同参画社会基本法」（平成11年６月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画推進体制を構築しています。（男女共同参画担当理事を長として、男女共同参画推進室を置いています。）

沖縄工業高等専門学校は、機構の下「男女共同参画推進委員会」を設置し、男女共同参画の意識啓発やワーク・ライフ・バランスのための環境整備等を推進しています。本校においても、数多くの女性教員が日々教育・研究分野等で活躍しています。

生物資源工学科　准教授　磯村　尚子

略歴紹介

みなさん、こんにちは。磯村尚子です。生誕地は東京、小学校入学時に仙台に転居しました。東北大学にて、学部・修士課程・博士課程を過ごし、博士（理学）を取得しました。

大学院時代から造礁サンゴ類の繁殖や生態、進化について研究してきました。お茶の水女子大・琉球大でのポスドク研究員を経て、沖縄で研究を続けたいと考えていた際に生物資源工学科環境系の助教公募にて採用していただき、2008年に着任後現在に至っています。

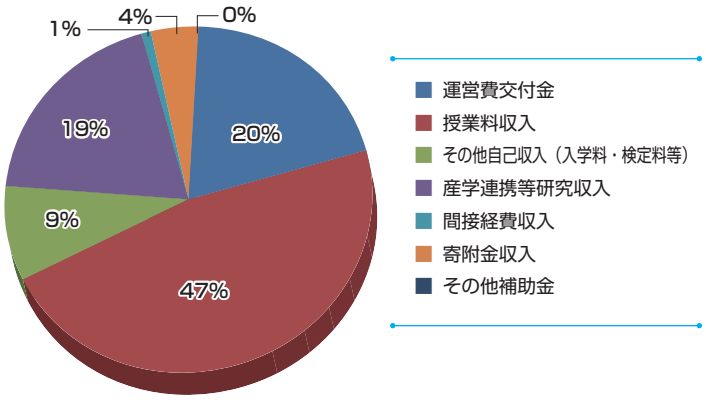
今年度は卒研生4人、特別研究生3人の研究室運営をすると共に、学生相談・支援室の副室長を務めております。どちらも、学生「指導」というよりも、学生からエネルギーや思いもよらなかったアイディアをもらえる職務だと感じています。

家族は夫と犬2匹（モナカ：パグ♀、ツムギ：琉球犬ミックス♀）です。初夏のサンゴ産卵時期には昼夜なく調査や実験をしますが、普段は土日のうち必ずどちらか1日は完全オフにして家族とのんびり過ごし、心身共にリラックスするようにしています。

収支報告・外部資金

収入・支出決算額（令和元年度）

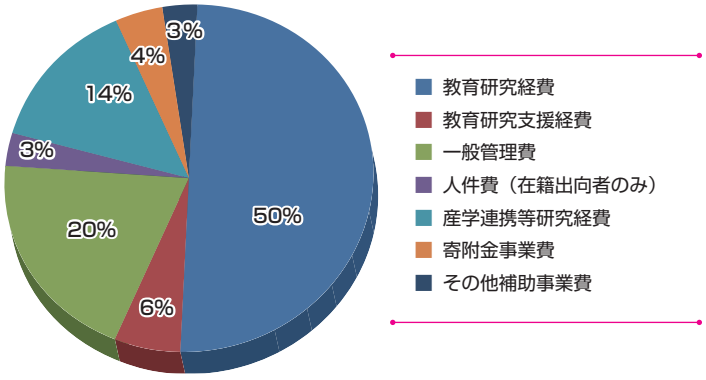
■収　入



収　　入	金額（単位：千円）
運営費交付金	81,929
授業料収入	190,513
その他自己収入（入学料・検定料等）	36,286
産学連携等研究収入	75,810
間接経費収入	5,736
寄附金収入	15,812
その他補助金	0
計	406,086

※人件費については本部事務局で計上しているため、運営費交付金に含めず

■支　出



支　　出	金額（単位：千円）
教育研究経費	181,079
教育研究支援経費	21,474
一般管理費	72,553
人件費（在籍出向者のみ）	10,420
産学連携等研究経費	51,087
寄附金事業費	16,754
その他補助事業費	10,210
計	363,577

外部資金

令和３年５月１日現在

年度／研究費名	平成30年度		令和元年度		令和２年度	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
共同研究	28	19,892	17	18,096	15	13,368
受託研究	19	50,225	16	49,784	12	29,851
科学研究費	12	13,442	12	10,244	17	36,018
寄附金	21	12,892	23	13,282	20	23,820
受託事業	2	1,723	1	12,000	1	13,901
受託試験	0	0	0	0	1	100
補助金	0	0	0	0	0	0
合　　計	82	98,174	69	103,406	66	117,058

建物配置図・土地・建物

創造・実践棟

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科
- 総合科学科
- 専攻科

メディア棟

- 図書館
- IT教室・CALL教室
- 事務部
- 視聴覚ホール
- レストラン

体育館

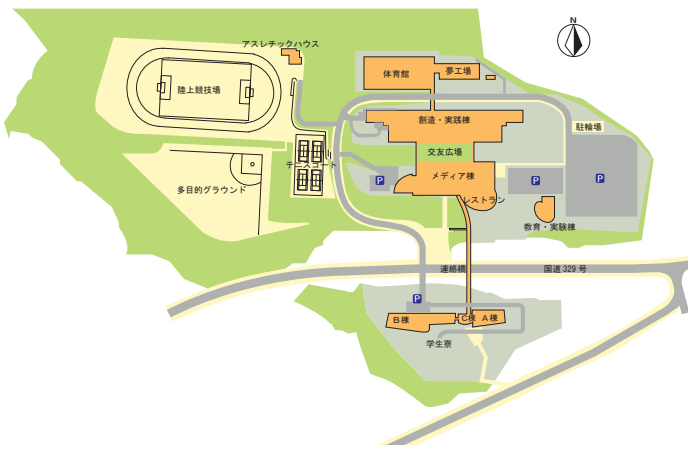
- アリーナ
- 格技場
- トレーニング場
- 伝統芸能道場
- プール

土　　地

総面積	使用区分			
	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他
156,056㎡	49,100㎡	36,100㎡	11,600㎡	59,256㎡

建　　物

区　　分	名　　称	構　　造	延 面 積
校舎等施設	創造・実践棟	R4	14,009㎡
	メディア棟	R4	5,023㎡
	夢工場	S2	665㎡
	教育・実験棟	S1	498㎡
体育施設	体育館	RS2	2,707㎡
	アスレチックハウス	R2	256㎡
学生寮施設	学生寮	R9	11,105㎡
合　　計			34,263㎡



国道329号から眺める建物外観

航空写真

① 校　門

② 交友広場

③ 創造・実践棟

④ メディア棟

⑤ 教育・実験棟

⑥ 学生寮

⑦ 体育館

⑧ 屋外プール

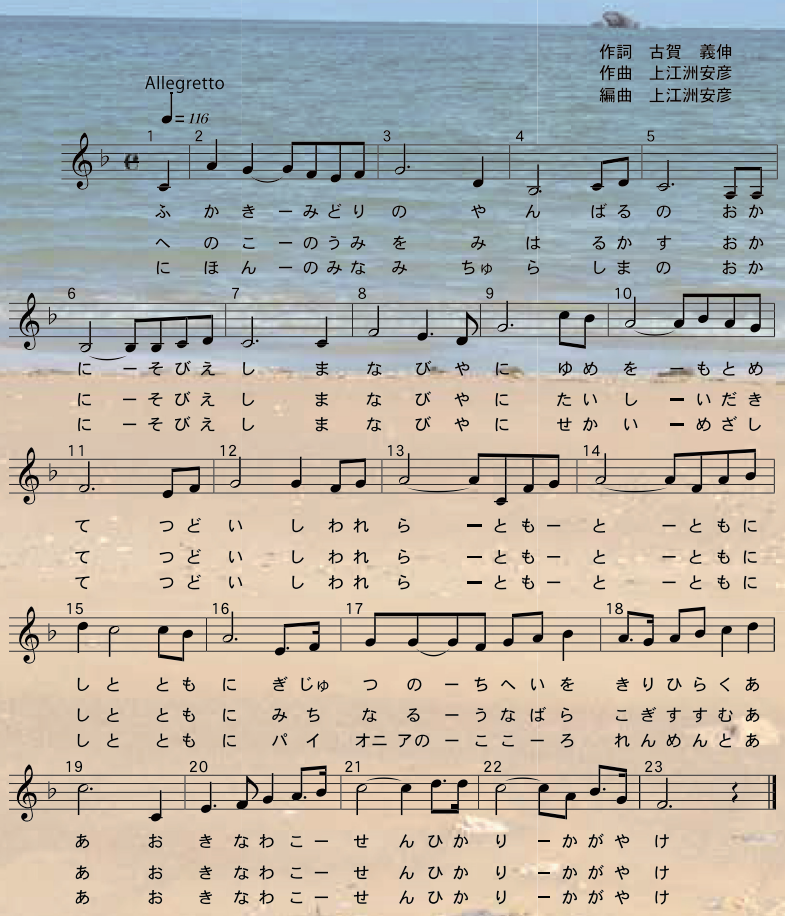
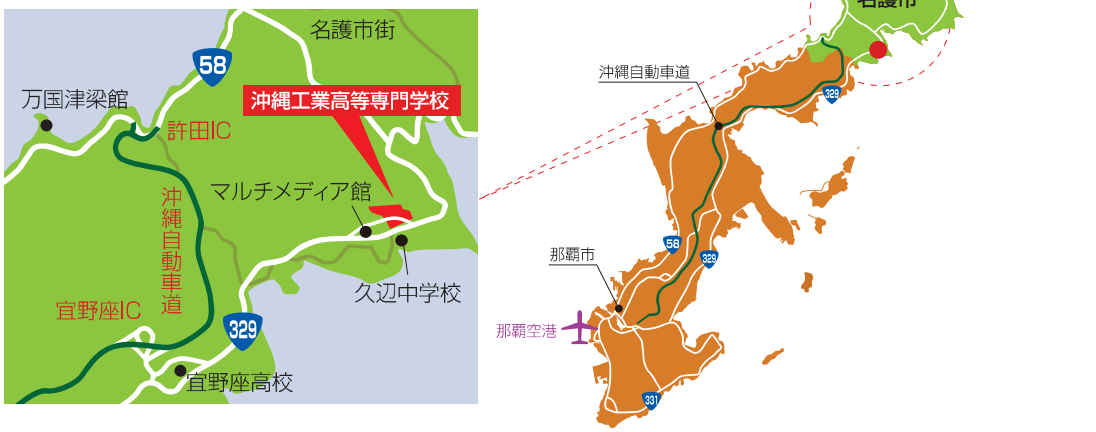
沖縄工業高等専門学校校歌

作詞　古賀　義伸
作曲　上江洲安彦
編曲　上江洲安彦

深き緑の山原の
丘に聳えし学び舎に
夢を求めて集いし我ら
友とともに、師とともに
技術の地平を切り拓く
ああ、沖縄高専
光り輝け

辺野古の海を見晴るかす
丘に聳えし学び舎に
大志抱きて集いし我ら
友とともに、師とともに
未知なる海原漕ぎ進む
ああ、沖縄高専
光り輝け

日本の最南（みなみ）、美ら島の
丘に聳えし学び舎に
世界目指して集いし我ら
友とともに、師とともに
パイオニアの精神（こころ）連綿と
ああ、沖縄高専
光り輝け

沖縄工業高等専門学校校歌



位置及び交通機関

県内から

那覇バスターミナル
(系統番号77)
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩５分

中部病院
(系統番号 22)
名護バスターミナル行き
↓
「沖縄高専入口」下車徒歩５分

バス路線の経由地詳細は、
http://okinawabus.com/ を参照願います。

自動車の場合は、沖縄自動車道「宜野座 I.C.」
を出て国道 329 号を北に約 10km 左側。
(国道上の歩道橋が目印です。)

県外から

(空港からの所要時間：約２時間)

●那覇（なは）空港国内線ターミナル到着
２番バス停から下記①または②のいずれか

①(系統番号111)
「名護(なご)バスターミナル」
行きに乗車
↓
「宜野座 I. C.」下車
(ぎのざインターチェンジ)
↓
「中央公民館前」
(系統番号77)
↓
「名護バスターミナル」
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩5分

②(系統番号117)
「オリオンもとぶリゾート」
行きに乗車
↓
「世冨慶(よふけ)」下車
↓
歩道橋を渡り
道路反対側より
(系統番号77)
「那覇(なは)バスターミナル」
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩5分

独立行政法人　国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地　TEL(0980)55-4003 [総務課総務係]
E-mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp　http://www.okinawa-ct.ac.jp